2018年度

第24回メキシコ日本語教育シンポジウム

開催日：2019年 3月 1日（金）、2日（土）、3日（日）

会場： El Colegio de México

主催：

社団法人メキシコ日本語教師会

El Colegio de México

Centro de Estudios de Asia y África

アジア・アフリカ・研究センター

助成：独立行政法人国際交流基金

もくじ

はしがき 3

プログラム 4

「教室で読むこと―中級に向けての自律学習」ハンドアウト 5

グループワーク 13

オンライン教材を日本語教育に活かす 28

シンポジウムの点景 37

一般発表 38

ポスターセッション 49

総会資料 63

会員名簿 84

はしがき

本年3月、1、2、3日の3日間、El Colegio Méxicoに於いて2018年度日本語教育シンポジウムが開催されました。このシンポジウムは独立行政法人国際交流基金の助成を受け、1990年より続いているものです。

2010年度より当シンポジウムは「さくら中核事業」助成の下実施されており、今年度のシンポジウムは、早稲田大学の舘岡洋子先生をお招きし、日本語学習における学習者の読解能力をいかに育成するかについて学びました。本テーマは、メキシコの多くの日本語教育機関で課題となっている「中級以上の学習者をいかに育成していくか」という課題を踏まえ決められたものです。講義では、舘岡先生が実例も取り入れ、ワークショップを通し、読解をより広い視点でとらえ、実践するための講義を行ってくださいました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。最終日の3日目には、国際交流基金関西国際センターの東健太郎専門家による講義「オンライン教材を日本語教育に活かす」も行われ、メキシコ国内外から64名の参加がありました。また、近年メキシコ全土からだけでなく、中南米からの参加者も増えています。今回はエルサルバドール、ニカラグアからの参加があり、他国との意見交換が行われ大変意義のあるシンポジウムとなりました。

シンポジウム初日には、国内外の4つの発表グループによる研究発表、実践報告が行われました。発表者の皆様によって、本シンポジウムはより意義のある知識交流の場となりました。今後もこのような場が続いていくことを願います。

そして、2日目最後にはメキシコ日本語教師会総会を行い、2018年度の活動報告、2019年度の活動予定、そして次期理事の選出ならびに承認を行いました。総会配布資料の中お2018年度の活動報告にいくつか誤りがあり、後日総会資料を再配布しました。ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

さらに、3日目には、国際交流基金関西国際センターの東健太郎専門家による、オンライン教材を取り入れた日本語教育を紹介していただきました。今後我々の日本語教育は教室の枠を超えてさらに広がりを見せることは間違いなく近い将来訪れると実感することができました。そして、その後に、ポスターセッションが行われ、メキシコ国内外からの発表者の方が、自ら実践されている取り組みを発表されました。どの発表もとても興味深く、自らの日々の日本語教育に生かせる内容であったと思います。

本シンポジウムは教師会初の試みとなる実行委員会制のもと2か年計画として行われました。実行委員会の諸先生方の惜しみないご協力をはじめ、会場となりましたEl Colegio Méxicoの心のこもったサービスにより本シンポジウムは無事成功に終えることができたことと思います。心より厚くお礼申し上げます。また、各事業にご協力いただいております独立行政法人国際交流基金メキシコ日本文化センターの皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。

最後になりますが、このシンポジウムをもって、8代理事は解散となり、9代理事の元、新しい教師会が始まります。第8代理事が皆様のお役に立てたかどうかは不安が残りますが、この任期中、出会

うことができた皆様、ご協力いただいた皆様、そして、メキシコ日本語教師会の会員の皆様にこの場をお借りして感謝の意を表したいと思います。誠にありがとうございました。

2018 年 4 月末日

社団法人　メキシコ日本語教師会
第 8 代理事一同

第 24 回メキシコ日本語教育シンポジウムプログラム

一日目(2019 年 3 月 1 日(金))	
9:30-	受付開始
10:00-	開会式
10:30-13:00	講義① 1-1「読むこと」を考える 1-2「教室で読むこと一中級に向けての自律学習」
13:00-14:00	昼食
14:00-15:45	講義② 2-1「読むことを」体験する
16:00-18:00	一般発表
	懇親会
二日目(2019 年 3 月 2 日(土))	
9:30-13:00	講義③ 3-1「読む授業」を創る
13:00-14:00	昼食
14:00-15:00	講義④ 4-1 振り返りと質疑応答
15:30-	メキシコ日本語教師会総会
三日目(2019 年 3 月 3 日(日))	
9:30-11:30	講義⑤ 国際交流基金関西国際センター　東健太郎専門員 「オンライン教材を日本語教育に活かす」
12:00-13:00	ポスターセッション
13:30-14:00	閉会式

「教室で読むこと－中級に向けての自律学習」

第24回
メキシコ日本語教育シンポジウム
2019年3月1日（金）～3月2日（土）

教室で読むこと
－中級に向けての自律学習－

早稲田大学大学院日本語教育研究科
舘岡洋子
http://www.gsjal.jp/tateoka/

1

「教室で読むこと」2日間の流れ

■1日目
午前：講義1-1 「読むこと」を考える　　個人
　　講義1-2 「教室で読むこと」を考える　　教室
午後：講義2 「教室で読むこと」を体験する

■2日目
午前：講義3 「読む授業」を創る　　授業デザイン
午後：講義4 振り返りとまとめ

2

今回、私が言いたいこと3つ

1）読解とは？
　異文化間コミュニケーションのツール。
　テキストと自分、他者と自分との対話。（舘岡2012）

2）自律とは？
　学習者が自らの目標を設定し、計画を立てて遂行し、結果を自己評価し、次の学習につなげていく。（舘岡2002）
→協働の学びは自律を学ぶことでもある。
→教室での読みとして「ピア・リーディング」の提案

3）「日本語教師の専門性」とは？
　理念とフィールドとの間で最適な方法を編成すること。
（舘岡2019印刷中）

3

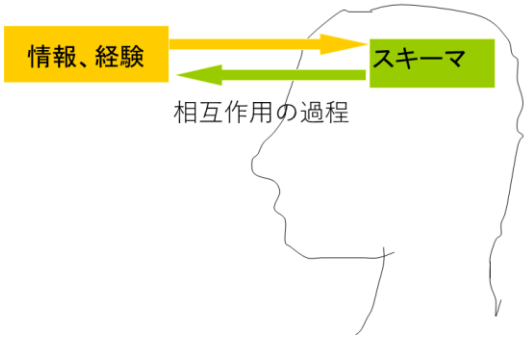
講義1-1
「読むこと」を考える

Q1：読む＝頭の中に情報が入って来ること？

Q2：読解＝長い文章を読むこと？

4

Q1：読むということは、
空っぽの頭の中に一方向的に
情報が入ってくることなのだろうか？



5

これは何の話？？？

例1）
彼は窓口に5ドル紙幣をポンと置いた。

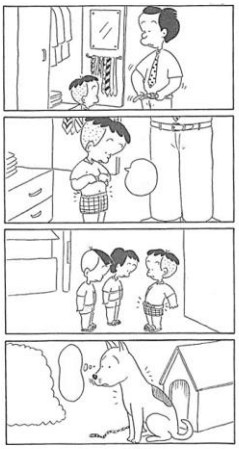
彼女は彼に2ドル50セント渡そうとした。

しかし彼は受け取らなかった。

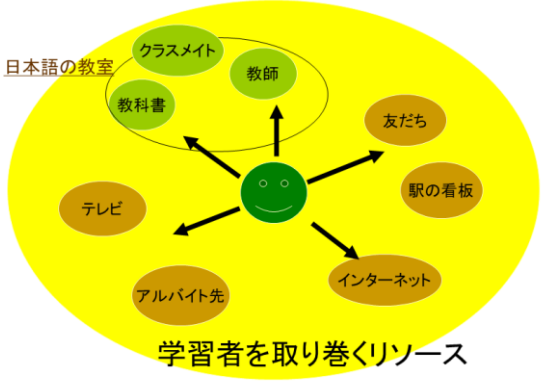
そこで2人が中に入った時、彼女は彼に大きな袋に入ったポップコーンを買ってあげた。

6

例2）
コボちゃんの
マンガ



読み手は「自分の知識」を使っている。
そして「ひとりの頭の中」だけのことではない。



学習者を取り巻くリソース

Q1:読むということは、空っぽの頭の中に
一方向的に情報が入ってくること
なのだろうか？

A1: テキストと相互作用し
自分を取り巻く多様なリソースと
相互作用している

9

Q2:「読解」とは、
長い文章を読むことなのだろうか？

A2:「読解」とは、
目的をもって読むもの
→タスクが埋め込まれたような読解を

「初級用読解タスク」をやってみましょう。

10

まとめ（1）

①読み手は自分の知識や周囲のリソースを利用している

②目的をもって読んでいる
→タスクが埋め込まれているような読解活動にするとよい

11

講義1-2
「教室で読むこと」を考える
＋
講義2
「教室で読むこと」を体験する

ピア・リーディング（peer reading）の提案

12

「日本語の教室」とは　どんな場所？

→日本語の教室は

- ・複数の学習者がともに存在する
- ・日本語の上達という目標を共有する
- ・学習者がそれぞれ異なった背景・経験・知識をもっている→互いに学びあえる
- ・他者との相互作用の中で「創発」が生まれる

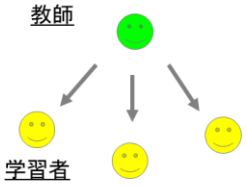
「教室だからこそ」できることは？

→学習の過程を共有し、学びあえるのではないか

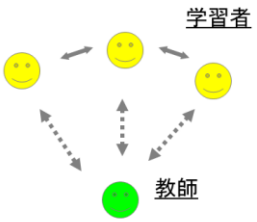
教室における教師と学習者の関係を転換してみよう

→「ピア・リーディング(peer reading)」の提案

【伝授者としての教師】



【支援者としての教師】



ピア・リーディング（協働的読解活動）の提案

（背景1）読解授業への問題点・疑問

（背景2）個人の読解過程の解明

（背景3）学習観・教育観の転換

ピア・リーディングとは

読解過程は見えない ＋ **読む＝個人的活動**

外化　　協働化・社会化

ピア・リーディング

定義：学習者同士が助け合いながらテキストを理解していく読みの活動

■協働（collaboration）：
互いに協力して何かをつくりあげる創造的な活動を行うこと。
ひとりではなしえなかった創発がおきる。（舘岡2005）

■ピア・ラーニング（peer learning）

- ・ピア ＝ peer（仲間の学習者）
- ・ラーニング ＝ learning
- ・学習者同士が協働して学ぶ活動

■ピア・リーディング（peer reading）

問題意識から実践の試行錯誤へ

◆ピア・リーディングによって学べるんだろうか？

◆舘岡（2000）の調査

事例検討「テリーとサリーの読解過程」

プロセス重視

- ・問題解決過程としての読解
  （読むことを2人で解決）
- ・学習者同士が対等に助け合う協働的活動による読解

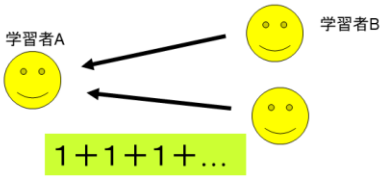
教師主導からの脱却・学習者主体

考察ピア・リーディングにおける 他者（ピア）の役割 ①

① リソースとしての他者

→教師とは異なったリソース

→協働する人が増えれば、リソースが増える



考察 ピア・リーディングにおける 他者（ピア）の役割 ②

② 対話の相手としての他者

→自己の見直し・修正 （例：狩猟解禁）

→ 自己の整理・深まり（例：身の危険を知って）

→ 新しいアイディアの創造

調査の結果：「ピア・リーディング」における他者の意義

（舘岡2005、2007）

① 認知面：リソースとしての他者 A ← B

対話の相手としての他者 A ⇄ B

② 情意面：動機付け、不安の軽減、楽しさ

③ 社会面：他者との関係構築

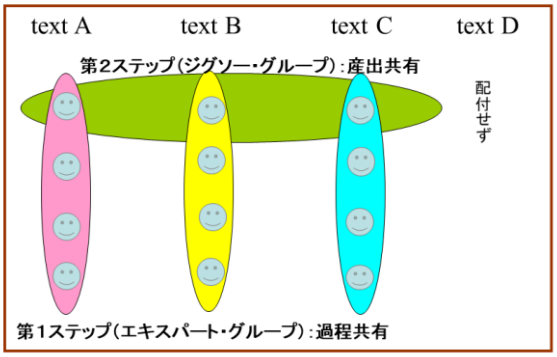
■これらは分けられないもの→理解の「共構築」

雪だるまのように作り上げていくもの

21

体験コーナー

プロセス・リーディング＋ジグソー・リーディング



まとめ（2）

①読み手は自分の知識や周囲のリソースを利用している

②目的をもって読んでいる

→タスクが埋め込まれているような読解活動にするとよい

③教室における協働性を利用する

→自律性の育成でもある

背景：なぜ「協働」なのか

1．社会の要請

グローバル化社会

知識の高度化
現象の複雑化
価値の多様化

★問題の解決が困難

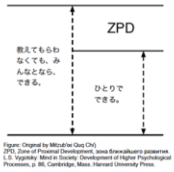
↓

必要なのは：異なった者たちが協力して新しいものを生み出すこと 協働力

24

2. 学習研究の成果

■学びの協働性—誰かといっしょに学ぶ
ヴィゴツキーVygotskyのZPD
Zone of Proximal Development



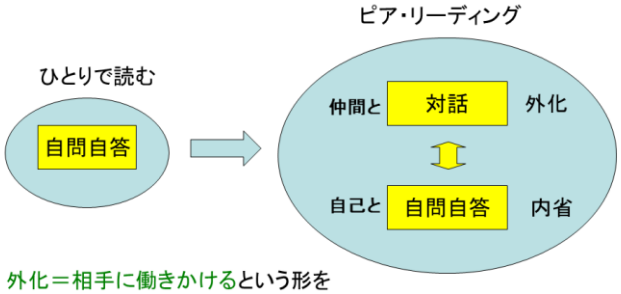
■社会的実践への参加としての学び
レイヴ＆ウェンガーLave & Wenger のLPP
Legitimate Peripheral Participation

25

まとめ（3）

①読み手は自分の知識や周囲のリソースを利用している
②目的をもって読んでいる
→タスクが埋め込まれているような読解活動にするとよい
③教室における協働性を利用する
④言語以外の表現活動も取り入れる

ピア・リーディングにおける「対話」



外化＝相手に働きかけるという形を取りながら、自己の理解を深めるという内省的な活動

27

ピア・リーディングが提供する学びの場

目的の一体化

ピア・ラーニングの２つの目的の一体化
（舘岡2007：51）

１）作文や読解などの課題を遂行する

２）仲間といっしょに学ぶことによって、人と人との社会的な関係性を築くことを学び、さらには自分自身というものに気づき、自分自身を発見していく

留学生のための日本語授業（評論文読解）@waseda
Critical reading

■CRの目的
テキスト理解についての仲間との対話を通して
思考の進化・深化をめざす
（テキスト理解＋他者理解＋自己理解）

■授業展開
1）理解する
2）自分の問題として考える
3）表現する

「クリティカル」の意味

理解する→自分の問題として考える→表現する

■検討その１－やりとりを通しての1人の変遷

キティ（台湾からの留学生）

資料：キティの提出シート

キティの第１作文＋第2作文

→他者のコメントを生かして自分を変える

■検討その２－やりとりを通しての2人の変遷

イェニ（ドイツ人）と

ボニー（カナダ系アメリカ人）の対話から

→やりとりによる気づき、ことばの学び

＜検討1＞「国」をテーマとしたテキストを読んで―キティ（仮名）の変容

「台湾人としてずっとほかの国の人に「中国」という国のシールを貼っているけど、自分は「さまよえる老婆」と同じ、どんなシールを貼っても、私は私です。（1日目　読後の振り返りシート）

↓

「たしかにいまどきの人は、いくらのパスポートをもっているかどうかはもうそんなにめずらしくない。だが、人は人種があるだろう。たしかに国は大抵シールみたいな、そんなに重視されないかもしれない。私は、自分がどこの国の人のことをハッキリ言えるように、現代人の国家意識を書きたいだ。」（2日目の宿題）

ボニー「国はただのラベルにすぎない」（2日目）

↓

第1作文

自分と異なる例を書けばもっとハッキリなるかも（3日目）

↓

第1作文→第2作文

同じ台湾人だが、生活環境の影響かもしれない、人によって、自分にとって国は異なることになるのだ。

館岡（2012）から

＜検討2＞「国」をテーマとしたテキストを読んで

イェニ（仮名）とボニー（仮名）の対話によるイェニの気づき

「私はアイデンティティはひとつのものだと考えていたが、ボニーさんと話しているうちにボニーさんがそう思っていないことがわかった。ボニーさんにとっては、一人の人の中に複数のアイデンティティがある。それは私にとって対立的な意見ではなく、私はボニーさんのような考え方もできると思った。」（イェニの振り返りシート）

↓ テキストの読み直し

↓ 考え直し

↓

「国は故郷。自分のアイデンティティは国ではなく、ヨーロッパにある。」（イェニの作文）

他者を通して自らの固有性に気づく

↓

さらに考え続けるきっかけとなる

【タスク】

カリナさんは友だちにメールで飲み会の連絡をしました。みんなからメールの返信がきました。

誰が飲み会に参加しますか。

遅れてくるのは誰ですか。

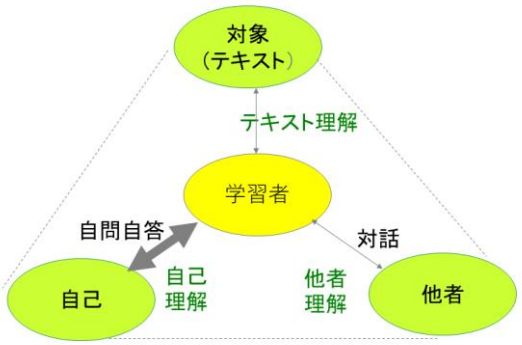
カリナさんは友だちにメールで飲み会の連絡をしました。
みんなからメールの返信がきました。

1）誰が飲み会に参加しますか。
2）遅れてくるのは誰ですか。

3）あなたがカリナさんなら、
それぞれの人に
どんな返事を書きますか。

みなさんも返事を書いてみてください

「自分の問題」として考える
⇒自分ならどうする？



まとめ（4）

①読み手は自分の知識や周囲のリソースを利用している
②目的をもって読んでいる
→タスクが埋め込まれているような読解活動にするとよい
③教室における協働性を利用する
④言語以外の表現活動も取り入れる
⑤自分の問題として考える

講義3
「読む授業」を創る

38

まとめ（1）～（4）

①読み手は自分の知識や周囲のリソースを利用している
②目的をもって読んでいる
→タスクが埋め込まれているような読解活動にするとよい
③教室における協働性を利用する
④言語以外の表現活動も取り入れる
⑤自分の問題として考える

今回、私が言いたかったこと　3つ

1）読解とは？

異文化間コミュニケーションのツール。
テキストと自分、他者と自分との対話。（舘岡2012）

2）自律とは？

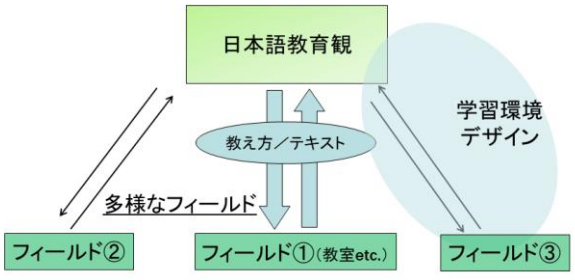
学習者が自らの目標を設定し、計画を立てて遂行し、結果を自己評価し、次の学習につなげていく。（舘岡2002）
→協働の学びは自律を学ぶことでもある。
→教室での読みとして「ピア・リーディング」の提案

3）「日本語教師の専門性」とは？

理念とフィールドとの間で最適な方法を編成すること。
（舘岡2019印刷中）

40

「教室で読む」ということ



「日本語教師の専門性」とは？
理念とフィールドとの間で最適な方法を編成すること。
（舘岡2019印刷中）

参考文献

- 池田玲子・舘岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門』ひつじ書房
- 舘岡洋子(2000)「読解過程における学習者間の相互作用―ピア・リーディングの可能性をめぐって」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』23, 25-50.
- 舘岡洋子(2001)「読解過程における自問自答と問題解決方略」『日本語教育111号』66-75
- 舘岡洋子(2002)「日本語でのアカデミック・スキルの養成と自律的学習」『東海大学紀要　留学生教育センター』第22号1－20
- 舘岡洋子(2005)『ひとりでよむことからピア・リーディングへ－日本語学習者の読解過程と対話的協働学習－』東海大学出版会
- 舘岡洋子(2006)「協働的学習はいつも学び合いになるか」『高見沢孟先生古希記念論文集』記念論文集委員会81－92
- 舘岡洋子(2008)「協働による学びのデザイン」細川英雄ほか編『ことばの教育を実践する・探究する』凡人社41－56
- 舘岡洋子(2010)「多様な価値づけのせめぎあいの場としての教室―授業のあり方を語り合う授業と教師の実践研究」『早稲田日本語教育学』7号, 1－24 http://hdl.handle.net/2065/29807
- 舘岡洋子(2011)「協働による学びがはぐくむことばの力―教室で読むということをめぐって」『早稲田日本語教育学』9号, 41－49　http://hdl.handle.net/2065/31743
- 舘岡洋子(2012)「テキストを媒介とした学習コミュニティの生成―二重の対話の場としての教室」『早稲田日本語教育実践研究』刊行記念号, 57－70 http://hdl.handle.net/2065/34125
- 舘岡洋子(2015)『協働で学ぶクリティカル・リーディング』ひつじ書房
- 舘岡洋子(2019印刷中)「日本語教師の専門性を考える―「専門性の三位一体モデル」の提案と活用―」『早稲田日本語教育学』26号
- 平高史也・舘岡洋子(2012)『読解教材を作る』スリーエーネットワーク

ありがとうございました

舘岡洋子　http://www.gsjal.jp/tateoka/

グループワーク

1班
カルロスさんの憂鬱

正木疆子・佐藤順子・岩永府子・カルロスバルデス・大久保明菜

カルロスさんの悩み

私は日系企業でエンジニアとして働いています。日本人の上司も同僚もみんな優しくて、いつも楽しく仕事をしています。しかし、昨日、日本人の同僚達は日本から来た出張者といっしょに飲みに行っていたようです。私は「お疲れ様」と言われたきり、誘われませんでした。

そういえば、一週間前も日本人のみんなは鈴木さんの誕生日を祝いに食事に行っていました。私はその時も声をかけられませんでした。

私は昼休みもよく日本人のみんなと日本語で話しているし、仕事もうまくいってるし、嫌われてはいないと思っています。チャンスがあれば、もっと日本人の人たちと話して日本語が上手になりたいと思っています。

それなのに、どうして誘ってもらえないのでしょうか。

質問

1．カルロスさんは、飲み会に行きたいと思っていますか。

2．日本人はどうしてカルロスさんを誘わないと思いますか。
かんがえてみてください。

3．カルロスさんはどうしたらいいでしょうか。

4．日本人の上司はどうしたらいいでしょうか。

5．あなたがカルロスさんならどうしますか。

この先のカルロスさんと上司になって
ドラマを作ってみましょう

2 班

Fernando Calderón Emigdio、岡田和成、川南真理子、桑原絵人
Ruth Martínez San Luis、福田淳子

UNAMのCEPE
日本人留学生　孝さんのケース
「あなたのうち」

UNAMのCEPEに留学に来た孝さんと、日本語が話せるホセさんと友達とのやりとり
（教室にて）
孝さんをパーティーに誘うホセさん

- ホセ「あなたの歓迎会をやりましょう。明日あなたのうちでやりましょう」
- 孝「ありがとう」
- セサル「じゃあ僕はビールを持って行くよ」
- パウラ「私はサンドウィッチを持って行くね」
- アラン「僕は音楽係だ」

パーティー当日、約束の時間になっても孝さんのうちにみんなが来ないので、孝さんはホセさんに電話をしてみることにした。

- 孝「ホセさんどうしたの、どこにいるの。誰も来ないよ。」
- ホセ「孝さんこそどこにいるの。みんな待ってるよ。」
- 孝「どこで待ってるの。僕のうちでやるって言ったよね。」
- ホセ「ええーわかってなかったんだー」

質問
・どうして孝さんは自分のうちで待っていましたか。
・どうして友達はホセさんのうちに集まりましたか。

ディスカッション
・この場面でどんな問題が起こりましたか。
・この後の会話を考えてみましょう。

発展
・このケース以外にも起こりそうな問題を考えてみましょう。

グループ3
セサルさんのバス旅行

大西恵美
ダニエル・ガルシア
竹川佐詠子
中畝小糸

ぼくは、夏、初めて日本に旅行に行きました。日本人の友達が富士山のツアーを予約してくれました。

高速道路のサービスエリアで、朝食のための休憩時間をとることになりました。ガイドさんが9時にバスに戻ってくるように言いました。ぼくたちはマクドナルドに行きました。食べ終わった後、友達は「ちょっとタバコを吸ってくるから、バスで会おう」と言ったので、バスに戻ろうとしました。しかし、その時、お土産コーナーを発見しました。お土産コーナーには、初めてみるお菓子や色々な食べものがあって、売り場のおばさんが食べてみてください、と言って、いろいろなものをくれました。ぼくはたくさんお土産を買って、バスに戻りました。

バスの外ではガイドさんが笑顔で待っていてくれました。

席に戻ると、突然友達は「遅い！」と怒鳴りました。ぼくはびっくりして、時計をみると、9時10分でした。

ガイドさんは笑顔だったし、周りの人も何も言わなかったのに、友達はとても怒っているようすでした。そのあと、バスが発車すると、ともだちは普通に話しかけてきたけれど、ぼくはみんなの前で怒鳴られて、話す気になれませんでした。

メキシコ時間

- 4班 “世界のともだち”

- メンバー
  - 江原真実(えばらまみ)(日本)
  - マリベル・リベロス(コロンビア)
  - アンドレア・ガルシア(メキシコ)
  - ロニー・ムニョス(コロンビア)

シチュエーション

- 日本から来た留学生:田中さん
- マリベルさんのサプライズパーティーに誘う
- ロニーさん

- 問題になる点
- 時間のちがい
- 日本人:時間どおりにつく
- メキシコ人:1時間後につく

サプライズパーティーの失敗

ロニーさんは日本から来た留学生の田中さんを、マリベルさんのサプライズパーティーに招待しました。パーティーは4時から始まると聞いたので、時間通りについたら、誰もいませんでした。田中さんは、誰もいないので、心配しました。場所が変わったから、もうパーティーに行けないと思って、マリベルさんに電話しました。

「マリベルさん、パーティーの場所が変わっちゃったみたいで、もう行けないけど、誕生日おめでとう!」

「え?何のパーティー?」

「ロニーさんから、マリベルさんの誕生日をお祝いするパーティーに誘ってもらったんだよ。」

「えー!知らなかった!」

マリベルさんは、ロニーさんに電話して、ロニーさんのサプライズパーティーの計画は失敗してしまいました。

質問

Q1:パーティーはなぜ失敗しましたか。

Q2:ロニーさんは日本人の時間の感覚を知っていたと思いますか。

Q3:日本人の時間の感覚を知ったロニーさんは、次の機会にどんなことを言えばいいですか。

Q4:あなたが田中さんだったら、どうしますか。

Q5:あなたがロニーさんだったら、どうしますか。

ディスカッションとドラマ

- 日本人とメキシコ人の時間の感覚について話しましょう。

- 新しく来た日本人に、日本文化を知っているメキシコ人はどうやって説明するかドラマを作ってください。

■質問
1.どうして友達はセサルさんに怒鳴りましたか。
2.そのときの友達の気持ちはどうだったと思いますか。
3.どうしてガイドさんはニコニコしてしていましたか。
4.まわりのお客さんはどう思っていたと思いますか。
5.あなたがセサルさんならどうしますか。
6.あなたが友達だったらどうしますか。

■ディスカッション
あなたの国でツアーに参加したら、どんな違いがありますか

■ドラマ
つづきのドラマを作ってみましょう。

タイトル：ハグしないで！

５班

-直井恵理子
-佐藤慎司
-Karla Berenice Cruz Guerrero
-Antonio Razo Aguilar
-泉千草

◆クラス

- レベル：初級後半
- 対象：日本語学校の高校生以上

◆活動プラン

1. 読む前に、どんな挨拶をするか考える。他の国ではどんな挨拶をするか、知っている知識をシェアしたり、調べたりする。ペアやグループで話し合う活動。

2. 本文を読んで、まずは内容の確認（語彙など）を仲間で行う。そのあと、一人で質問に解答する。

3. 書いた答えをペアやグループでシェアする。

4. まとめとして、次に日本人に会ったとき、どうするかをドラマにして発表し、その感想を話す。（感想はスペイン語でも可）

【読む前に】

★メキシコでは、どんな挨拶をしますか。他の国ではどんな挨拶をするか知っていますか。ペアやグループで話してみましょう。

【本文】

ベレさんのケース

初めて日本人に会ったとき、私はメキシコ式に、キスとハグをしました。その時、その日本人はびっくりして、私から離れました。①私はその時、「日本では挨拶するときにハグもキスもしない」ということを知りました。

その次に別の日本人に初めて会ったとき、私は「日本人だからハグしたらダメだ」と思い、礼をしようとしました。しかし、その日本人は「Hola!」と言って②私のことをハグし、キスしてきたのです…。

★分からないことばがないか、確認しましょう。

【質問】

Q1：①のとき、ベレさんはどんな気持ちだったと思いますか。

Q2：②のとき、ベレさんはどんな気持ちだったと思いますか。

Q3：あなたはどんなとき、「ハグ」をしますか。

Q4：あなたがベレさんなら、次に日本人に会ったとき、どうしますか。

【読んだ後に】

★ベレさんはまた新しい日本人に会いました。どんな挨拶をするか、ベレさんと日本人になって、この先のドラマを作ってみましょう。

★ドラマを作ってみてどうでしたか。何がむずかしかったですか。また、他のペアのドラマを見て、どう思いましたか。

6班
角南皓（あきら）・星野由美子・サマンタ　エレラ・
アンドレア　マルケス・佐藤梓

「マリオさんと仲直りしたい」

私はメキシコに来たばかりの日本語教師です。コピーはいつもマリオさんという担当者にお願いしています。ただし、100枚以上のコピーは、前日までに頼むことになっています。私はまだスペイン語がよく分かりませんが、マリオさんは少し日本語が分かります。

昨日は、急な会議のために資料が必要でした。コピーは全部で120枚でした。それで、マリオさんに「これ急いでいるから、今すぐにコピーして！」と頼みました。すると、マリオさんはとても嫌な顔をして、「今すぐはできない。」と答えました。でも、どうしても必要だったので、「会議だから、とにかく早くして！」と言いました。それで、マリオさんはさらに嫌な顔をしましたが、渋々コピーしてくれました。

でもそれ以降、マリオさんは廊下であってもあいさつをしてくれません。それに、ルールを守ってコピーを頼んでも、すぐにコピーをしてくれなくなりました。たしかに枚数は少し多かったけれど、コピーをするのはマリオさんの仕事です。なぜマリオさんはそんなに怒っているのかわかりません。このまま続くと、とても働きにくいです。

Q1 マリオさんはなぜ今、怒っていますか。
Q2この先生は何か悪いことをしましたか。
Q3マリオさんは先生のことをどう思っていると思いますか。
Q4これから先生はどうしたらいいと思いますか。
Q5 あなたがマリオさんなら、どうしたと思いますか。
Q6 あなたが先生さんなら、どうしますか。

ディスカッション
この先生は、マリオさんとの関係を修復したいと思っています。
どんなアドバイスをしますか。

ドラマ
先生とマリオさんになって、関係が悪くならないようなドラマを作ってください。

「日本人は冷たい？」

ラッキー７
ダビッド、マウリシオ、長尾、政田、山本

私はフランシスコです。
私は２週間前に日本へ来たばかりです。
日本での旅行は本当に楽しいんですが、ある日、ショックなことがありました。

先日、カフェで食べている時に、天気も良くて、誰かと話したいなあと思ったんです。隣にきれいな女の人が一人でコーヒーを飲んでいました。
その人の鞄に自分の好きな「デス・ノート」アニメのストラップがついていました。
僕は「あのー、すごいストラップですね。デス・ノート、好きなんですか。」
と聞きました。彼女は「ええ。」と言ったので、僕は「僕も好きなんです。」と言って、もっと話がしたいなあと思いました。でも、彼女は笑顔で席を立って、他の席に座ってしまいました。
僕は何か悪いことをしたかなと思い、ちょっと慌てて、そのあと、「何だー、冷たいなぁ」と思いました。

そのあと、同じようなことが何度もありました。
日本人は外国人と話すことが嫌なんでしょうか。
せっかく日本語を勉強したのに、話せないなんて、残念です！

1．フランシスコさんがショックだと思ったのはどんなことですか。

2．どうして、フランシスコさんは日本人は冷たいと思いましたか。

3．フランシスコさんはどんな気持ちで女の人に話しかけましたか。

4．女の人は話しかけられて、どんな気持ちだったでしょうか。

5．あなたがフランシスコさんだったら、どうしますか。

ディスカッション
- そもそも何が問題なのでしょうか。
- 日本人と知り合うにはどうしたらいいのでしょうか。
- 他の場面でも日本人のリアクションは同じでしょうか。
- 例えば、フランシスコさんの体調が急に悪くなった時など

日本人は冷たいと思ったことがありますか。
グループで話してみてください。
クラスメートの印象と自分の印象は同じですか。

8班
日本から来た留学生とメキシコ人の友達

ウエルタ・オスカル
リサラガ・アレハンドロ
栗飯原淑恵
桑葉洋平
嶋崎明美

日本から来た留学生とメキシコ人の友達

メキシコへ留学で来た太郎が君がホームステイ先の息子さん（アレハンドロ君）と同じ大学のキャンパスへ行きました。
そこで、アレハンドロ君は太郎君に女の子の友達を紹介します。
マリアさんは太郎君に挨拶でほっぺたにキスをしました。
太郎君はびっくりしました。
三人で話しし始めました。太郎君はマリアさんに歳を聞きました。マリアさんは戸惑いましたが、「そんなことは女性に聞いてはいけないことよ」と言いました。
マリアさん「今度パーティーするから来て！」
マリアさんと別れた後で：
太郎君がアレハンドロさんに「マリアさんにキスされたけど、もしかしたら僕のこと好きなのかな？」
太郎君「パーティはいつなんだろう」と聞きました。

質問

Q1　太郎君どうしてアレハンドロ君に質問をしましたか。
「マリアさんにキスされたけど、もしかしたら僕のこと好きなのかな？」

「パーティはいつなんだろう」

Q2　あなたがアレハンドロだったらどう答えますか。

ディスカッション
日本とメキシコの習慣の違いをあなとの経験を入れて、グループで話し合いましょう。

ドラマ
この先のドラマを作ってみましょう。

９班

ヘスス・サントス
アントニア・リバス
辻祐子
関千晶
三浦里美

９班　メキシコ人留学生ヘススの出会い

メキシコ人留学生ヘスス君は日本に来て半年。出会いがほしい。街に出て、いろいろな女の子にかたっぱしから声をかけるが、反応がよくない。そこへ、同じ大学の日本人、健二君が通りかかる。ヘススは日本人の女の子の反応が悪いことが理解できない。健二に相談する。・健二は話を聞いて、メキシコ風のナンパの仕方にびっくりする

質問

・ヘスス君に日本で彼女ができないのはどうしてだと思いますか。
・健二君はヘスス君にどう反応しますか。
・日本人はナンパをどう受け止めると思いますか。
・自分が声をかけられた女の子だったら、どう思うでしょうか。
・自分の国ではどんなふうにして女の子と知り合いますか。直接声をかけますか。
・ヘスス君に春は訪れるのでしょうか。
・あなたがヘスス君ならどんな出会いの方法を考えますか。

活動

・ヘスス君の行動について、何が問題なのか各自、付箋にアイディアを書き、意見の類似点・相違点をまとめる。
・上記を見ながら、話し合う。
・ヘスス側と女の子側に分かれ、討論する。
・いい出会いになるドラマを作る（ミックスグループ）。

ピア・リーディング

「エルくんのもやもや」

10班

ファビアン・ロブレス

ヘナロ・レオン

鈴木小百合

平田好

大和文子

「エルくんのもやもや」

私は留学生のエルです。日本のとあるレストランでアルバイトをしています。最近、気になるアルバイト仲間がいます。リエちゃんです。今日は思い切ってリエちゃんを食事に誘いました。

「今度、いっしょにご飯食べにいかない？」

「いいよ、いいよ！」

リエちゃんはにこにこして、「じゃ、今度LINEして！」と言いました。

（やった～！）・・・私はうれしかったです。その夜、私はリエちゃんに、いつ行こうかとLINEしました。

ところが、リエちゃんの返事は「ごめん。忙しい」でした。

それで、私は次の週、「今週はどう？」ともう一度LINEしました。でも、リエちゃんの返事は、来ませんでした。

今もまだ、私の気持ちはもやもやしています。

ことば：仲間　思い切る　ニコニコする　ところが　返事　もやもや

【授業デザイン】

目的：

誘いと断りの場面における表現と受け止め方の違いを理解する。

展開：

①各自で読む

②わからないところをグループで確認する

③質問について各自が回答する

④各自の解答を共有し、話し合う

⑤自分のこととして考える

⑥エルくんへのアドバイスを考える。

質問：

Q1　リエちゃんはどうして「いいよ、いいよ」と言いましたか。

Q2　エルくんはリエちゃんからメッセージをもらったとき、どう思いましたか。

Q3　どうしてリエちゃんは返事をしませんでしたか。

Q4　あなたがエルくんだったら、リエちゃんのしたことをどう思いますか。

Q5　あなたがエルくんだったら、このあとどうしますか。

グループディスカッション

エルくんのもやもやは、どうしたら、なくなりますか。エルくんへのアドバイスをかんがえましょう。

11班　穂積和子・アダリ　ロメロ・
ジャネット　ソリス・鵜飼香奈子

「友達！友達？」

JさんとKさんはTwitterで友達になりました。Jさんはハラパに住んでいます。
Kさん日本人でメキシコ人と結婚してクアッツァクアルコスに住んでいます。クアッツァクアルコスには日本語を話す人がいないのでKさん寂しいからJさんに「来て来て！」といつも言っていました。JLPTの時メキシコシティで初めて会うことができました。一緒に夜ご飯を食べて楽しい時間を過ごしました。写真もいっぱい取りました。最後には電話番号も交換しました。
（次の日）
JさんはKさんから「遊びに来てください！」というメッセージを何度ももらいました。こんなに何度も誘ってくれるならと「来月休みがあるので会いにいきます！」とKさんにメッセージしました。そうしたらKさんに「ホテルの予約はもうしたの？」と言われたので、Jさんは「あれ？」と思いました。Jさんはホテルを調べてみたら高かったです。それでクアッツァクアルコスに行くのを諦めました。Jさんは「すみません、来月は行きません。次の休みに是非行きます」とメッセージしました。Kさんからの返信はありませんでした。
Jさんが数か月後にTwitterを見たら、KさんはJさんをUnfollowしていました。

★以下の質問に最初は一人で考えてください。そのあと他の人と比べてみましょう。

1. どうしてJさんは「あれ？」と思いましたか？
2. どうしてKさんはJさんをUnfollowしましたか？
3. どうしたらこの二人は友達のままでいられたと思いますか？
4. あなたがJさんならどうしますか。
5. あなたがKさんならどうしますか。

★ディスカッション

• そもそも何が問題なのでしょうか

あなたがJさんなら、Kさんと仲直りするためのメールを書いてください。

12班

-あいさつ-親しみの表現-

河崎/渡辺/加納/ヘラルド/フアン/竹森

(1)あいさつの経験(4人でディスカッション)
・普段、ラテン人同士でどんなあいさつをしているか。
・日本人とあいさつをしたことがあるか、どうだったか。
(2)読解
・２人で読む→4人で共有

(3)あゆみさん(こころの声)ストーリーを考える

(4)ラテン人と日本人の理想のあいさつルールブック作成

(5)実際にやってみる(ドラマを動画撮影)

12班-あいさつ-親しみの表現-

私は、ホセです。仕事の日本人の同僚あゆみさんと友達になったと思っています。(恋愛感情はない)　一度、誕生日のときに「おめでとう」のハグをしてから、あゆみさんの態度が変わりました。

日本人だから、パーソナルスペースが広いのは知っているので、たぶん、ハグのせいだと思います。

あゆみさんも参加する会議の席はいつも私のとなりですが、今日の会議で、あゆみさんは違う席に座りました。

メッセージの返事も、絵文字がありません。

これから、どうすればいいかわかりません。

13グループ
携帯電話が大好きです

ジョセリン、三浦、セシリア、島、加藤

クラス計画

1. アイスブレイク（携帯電話についてクラスで話す。例：どのくらい使っている？何に使っている？いつ、どこで使っている？）
2. テキストを読む
3. 質問に答える
4. ディスカッション
5. 書きましょう

テキスト「携帯電話が大好きです」

私はラウラです。18歳です。日本語を半年ぐらい勉強している学生です。

日本語のクラスは楽しいですが、クラスのルールでよくわからないことがあります。

クラスの時に、となりの人は携帯電話で辞書を使っていました。私は家族から連絡があって携帯電話を使っていたら、日本人の先生に「ラウラさん携帯電話を使わないでください」と怒られました。となりの人も携帯電話を使っているのに、どうして私だけ怒られたのか、わかりません。それに家族のことは大切なことなので、携帯電話を使うのは問題ないと思っていました。

質問

1. ラウラさんがクラスでよくわからないことは何ですか。
2. ラウラさんはどうして携帯電話を使いましたか。
3. となりの人はどうして携帯電話を使っていましたか。
4. 先生はどうしてラウラさんだけ注意しましたか。
5. あなたかがラウラさんならどうしますか。
6. あなたが先生なら学生が携帯電話を使っている時どうしますか。

ディスカッション

1. クラスで携帯電話を使ってもいいと思いますか。
2. いつでも携帯電話を使っている人についてどう思いますか（食事、トイレ、など）

書きましょう

ラウラさんと先生にアドバイスを書きましょう。

オンライン教材を日本語教育に活かす

オンライン教材を日本語教育に活かす

Uso de los materiales en línea en la enseñanza del idioma japonés

4° Seminario sobre la enseñanza del idioma japonés en León

東 健太郎 Kentarou_Azuma@jpf.go.jp
国際交流基金 関西国際センター
The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai

最初に質問です

- 授業の準備や授業中に、ウェブサイトやアプリをよく 使いますか？
- 学習者にウェブサイトやアプリでの学習を勧めたことがありますか？

なぜ eラーニング？

- 日本語学習者にとって
  日本語の勉強がいつでもどこでもできる
  自分がやりたい練習ができる
  継続学習に役立つ

- 日本語教師にとって
  学習者支援に役立つ
  授業に役立つ

本日の目標

- 国際交流基金（JF）が作った日本語学習のためのeラーニング教材について知る
  → 学習者に紹介できる
- 日本語教育現場でのeラーニング教材の活用アイデアを得る
  → 教育現場で活用できる

本日の流れ

1．「みなと」オンラインコースの活用

・「みなと」の紹介、体験

・「みなと」の活用方法を考える

2. 日本語学習サイト・アプリの活用

・日本語学習サイト・アプリの紹介、体験

・日本語学習サイト・アプリの活用方法を考える

本日の流れ

「JFにほんごeラーニング みなと」と
日本語オンラインコースの紹介・体験

グループワーク
「みなと」とオンラインコースの活用方法を考える

日本語学習サイト・アプリの紹介・体験

グループワーク
eラーニング教材の活用方法を考える

全体共有、意見交換

日本語コース

コースタイプ

レベル

解説言語

学習カテゴリ

開講拠点

自習コース：18種類51コース
教師サポート付きコース：12種類

「みなと」という 名前

「みなと」という名前の由来は？

まるごとオンラインコース

https://minato-jf.jp/

自律学習

教材

日本語（聞く/話す/読む/書く）と**日本文化**を総合的に学べるインタラクティブなコース

学習サポートコンテンツ、マイページで自学自習 を支援

練習教材や自習用に！

学習の流れ —「かつどう」

・日常場面での**コミュニケーション実践力**を身につける
・**Can-doごと**に学習を進める

ステップ1：目標を知る
ステップ2：見る・聞く・言ってみる
ステップ3：聞く・気づく
ステップ4：使ってみる
ステップ5：Can-doチェック
ステップ6：生活と文化（偶数課のみ）

目標Can-doや場面を確認します。
音声を聞いて、言う練習をします。
会話などを聞いて、内容を理解し、表現に気づきます。
動画を見て話す練習をしたり、日本語を書いたりします。
目標Can-doができたか、自分でチェックします。
日本の生活と文化について写真や動画を見て、理解します。

国際交流基金 関西国際センター
The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai

学習の流れ —「りかい」

・**コミュニケーションのために必要な日本語のしくみ**について学ぶ
・**課ごと**に学習を進める

ステップ1：きほんぶん
ステップ2：もじとことば
ステップ3：かんじ
ステップ4：かいわとぶんぽう
ステップ5：どっかい
ステップ6：さくぶん
ステップ7：クイズ（A1-1、A1-2のみ）
ステップ8：にほんごチェック

学習することを確認します。
文字とことばを練習します。
トピックに関係することばの漢字を学びます。
会話と文法を結びつけ、文の構造やルールを理解します。
短い文章を読みます。
短い文章を書きます。
まとめのクイズをします。
場面にあった日本語の使い方がわかったか、自分でチェックします。

学習ページ

自学自習支援

・学習サポートコンテンツ
①学習ページ内のボタン（補足説明やヒント）
②各課の語彙リスト、文法解説、漢字
③内容一覧、文法資料、漢字リスト、語彙帳など

・マイページ「学習進捗」
進捗確認、テスト、プレゼント

・マイページ「ポートフォリオ」
課題、体験記録、テスト結果、チェックリスト

国際交流基金 関西国際センター
The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai

学習進捗ページ

ポートフォリオページ

活用例　基礎の事前学習

まるごとA1-1（かつどう・りかい）自習コース

コース開始前　L1.L2を学習　授業参加

活用例　反転授業的に使用

まるごと（かつどう・りかい）自習コース

大学、日本語学校（スペイン）
JF講座（マレーシア）
まるごと教師サポート付きコース

授業前

家で
まるごとコース自習
(ポートフォリオ提出)

授業で
・会話練習
・プレゼン
・作文発表、添削

活用例　自習用教材

まるごと（かつどう・りかい）自習コース

シンシナティ大学（アメリカ）

授業参加

病欠や企業研修時に
オンラインコースで自習

授業参加

活用例　宿題・復習用教材

まるごと（かつどう・りかい）自習コース

大学（イギリス、アメリカ）

授業参加

授業後
宿題・復習教材として
オンラインコースを使用

授業参加
・会話練習
・質問へのFB

活用例　授業用教材

まるごと（かつどう・りかい）自習コース

授業内でオンラインコースを
聴解、会話、語彙、文法練習等で使用

活用例　授業用教材（漢字）

まるごと（かつどう・りかい）自習コース

漢字のクラスでオンラインコースやまるごと+の
筆順やメモリーヒントビデオを確認して、練習

活用例　授業用教材（生活と文化）

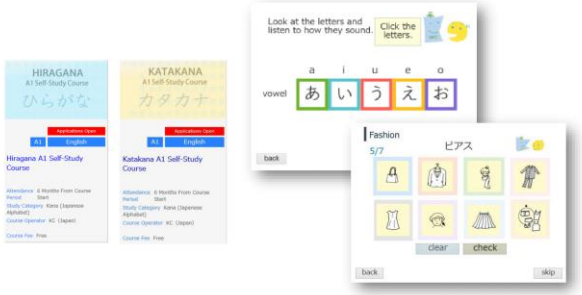
まるごと（かつどう・りかい）自習コース

「生活と文化」のビデオを見て日本について知る

自国と日本を比べて、
違いや同じ部分について
話し合う

みなと　ひらがな・カタカナコース

自律学習
教材



- ひらがな、カタカナの読み書きを一通り学べる
- 負担なく文字を学べる（1回15分程度）

練習教材や
自習用に！

国際交流基金 関西国際センター
The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai

活用例　文字の事前学習

ひらがなA1自習コース
カタカナA1自習コース

マレーシアイスラム科学大学
JF講座（マレーシア）
外交官公務員研修（KC）

コース開始前

修了証提出

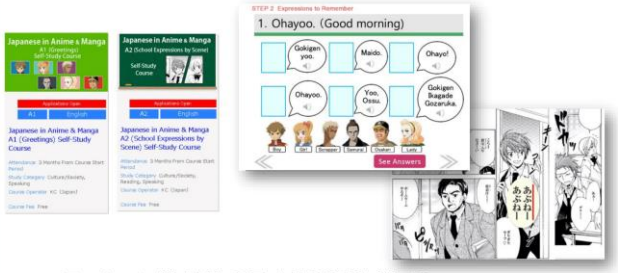
プレースメント
テスト

授業参加

国際交流基金 関西国際センター
The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai

アニメ・マンガの日本語コース

自律学習
教材



- アニメ・マンガに現れる日本語表現を学べる
- A1は表現を学び、キャラになりきってあいさつ
- A2は表現を学び、マンガを読み、アフレコ

練習教材や自習用に！

KCよむよむコース

自律学習
教材

1．太郎くんの夏休み
2．天王寺動物園
3．私の一日
4．図書館
5．金剛山
6．はじめまして、わたしはアインです
7．アインさんインタビュー

- やさしい日本語で書かれた本を、自分の好きなものから自由に読むことができる
- 本は多読用のKCオリジナルのもの

練習教材や宿題に！

華道コース

自律学習
教材

- 動画とクイズで華道の基本と生け方、語彙が学べる
- バーチャルゲーム、または実際の花を使って花を生ける体験ができる

自習用に！

関西弁入門コース

自律学習
教材

- 関西弁でのコミュニケーションを学ぶコース
- 動画、クイズでインタラクティブに学べる

練習教材や自習用に！

俳句入門コース

自律学習
教材

- 日本語の俳句を詠んだり、作ったりするコース
- コースグループで受講者同士の俳句にコメントしあえる

練習教材や自習用に！

活用例　俳句クラス

eラーニング教材：「みなと」の「俳句入門B1自習コース」
対象者：中級（B1）レベル
学習目標：
① 俳句の特徴について読んで、俳句に関係があることば（拍、季語、切れ字など）を理解できるようになる
② 俳句を読んで、どんな情景か理解できる
③ 俳句の作り方のポイントに注意しながら、季節や自然をテーマに俳句を作ることができる

学習の流れ：
① 事前教材としてSTEP1「俳句って何？」を見てくる
② 授業中に、STEP 2「俳句を作ろう」の俳句を鑑賞し、STEP 3「俳句を作ろう」のワークシートと季語リストを使って、自分で詠んでみる。クラス内で共有する
③ 授業後に俳句コースのグループに投稿する（他の受講生の俳句にコメントする）

体験しましょう！日本語オンラインコース

グループワーク
「みなと」の活用方法を考える

① オンラインコースの感想を共有

② 授業でどのように活用できそうか話し合う

③ 学習者にどのように勧めるか話し合う

2. 日本語学習サイト・アプリの活用

JF日本語学習サイト&アプリ

ウェブサイト

- まるごと＋
- ひろがる もっといろんな日本と日本語
- アニメ・マンガの日本語
- 日本語学習ポータルサイトNIHONGO eな
- エリンが挑戦！にほんごできます。
- 日本語でケアナビ

アプリ

- HIRAGANA Memory Hint
- KATAKANA Memory Hint
- KANJI Memory Hint 1, 2, 3
- エリンと挑戦！にほんごテスト

HIRAGANA/KATAKANA Memory Hint

http://www.jfkc.jp/ja/material/memoryhint.html

自律学習

- モバイル端末用かな学習アプリ（スマホ・タブレット）
- インターネット環境がなくても使用可
- 連想イラストとクイズで楽しく かなが学べる
- 覚えられたかどうか確認するためのクイズ、ゲームも充実

KANJI Memory Hint 1,2 & 3

http://www.jfkc.jp/ja/material/memoryhint-kanji.html

自律学習

- モバイル端末用漢字学習アプリ（スマホ・タブレット）
- 連想イラストとゲームで 楽しく 漢字が学べる
- 「まるごと＋」漢字コンテンツの 連想イラストを活用

※KANJI 1「まるごと＋」入門(A1)の漢字
KANJI 2「まるごと＋」初級1(A2)の漢字
KANJI 3「まるごと＋」初級2(A2)の漢字

活用例　Memory Hint

【授業前】
家で事前学習

【授業中】
プロジェクターに投影してかな・漢字の導入
自分のスマホを使ってペアで練習（ゲームで楽しく）

【授業後】
授業で習ったかな・漢字をアプリで復習

まるごと＋

http://marugotoweb.jp/

自律学習
教材

- 『まるごと』の学習サポートサイト
- 課題遂行、異文化理解を重視
- 動画などを活用した各種練習ができる

入門(A1)

初級１(A2)

初級２(A2)

活用例　まるごと＋

【授業前】
授業前に自習

【授業中】
ドラマでチャレンジの動画を見て、トピックの導入
生活と文化の記事を読んだり、ビデオを見てディスカッション

【授業後】
文法、語彙、漢字を復習

活用例　まるごと＋

eラーニング：「まるごと＋ 入門（A1）」
対 象 者：入門（A１）レベル
学習目標：① 日本人の朝と夜の時間の使い方を知る
② 自分の朝と夜の時間の使い方を振り返る

学習の流れ：
① 簡単な質問やクイズでトピックを導入
② 日本人の朝と夜の過ごし方を紹介
・まるごと＋入門（A1)の「せいかつとぶんか」トピック５「せいかつ」の「朝の風景」「夜の風景」の動画を見る
・いろいろな人の朝晩の過ごし方を紹介する
・日本人の活動を見て、どう思ったかシェアする
・自分の朝と夜の過ごし方をグループで話す
③やってみたいと思う朝/夜の過ごし方をFacebookグループで共有 (宿題)

活用例　まるごと＋

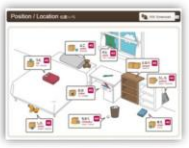
eラーニング：「まるごと＋」初級1（A2）「生活と文化研究所」
対 象 者：初中級～中級（B1-B2）レベル
学習目標：① 日本の社会問題についての動画を見たり、記事を読んだりして、概要を理解できる
② 社会問題の解決策についてディスカッションできる

学習の流れ：
① 日本の「少子化対策」に関する記事やデータ
・ニュースタイトルやキーワードで問題の内容を予想。
・データでわかることについて話したり、キーワードを確認したりする。
② 「まるごと＋ 初級1（A2）」の「生活と文化研究所」
・トピック１「妻と夫の役割」「注目！この人　四ツ谷氏」動画を見る。
・記事をジグソー読み（各自担当分）し、要点を共有する。
・全体を読み、関連記事（同僚への遠慮、パタハラ）を読む。
③ 「少子化対策」についてグループでディスカッションする。

まるごとのことば

http://words.marugotoweb.jp/

自律学習
教材



- 『まるごと』に出てくる語彙が学習できる
- 入門(A1)～初級２(A2)まで
- 語彙検索機能（簡易辞書）
- 語彙リスト作成、クイズ
- 日付、数字、位置などのことばのチャート
- ７言語（英・西・印尼・泰・越・中・仏）

ひろがる もっといろんな日本と日本語

自律学習
教材

https://hirogaru-nihongo.jp/

- 自分の楽しみを通して、いろいろな日本や日本語について学べる
- 12のトピックに関する情報を　読んだり、聞いたりできる
- JFSのA1,A2レベルの日本語でわかる使える
- マルチデバイス対応

練習教材や自習用に！

活用例　ひろがる

【授業中】
動画を見て、トピックの導入
記事を読んだり、ビデオを見てディスカッション

【授業後】
記事を読んで、自分のことをSNSで発信

アニメ・マンガの日本語

自律学習
教材

http://anime-manga.jp/

- ポップカルチャーからの日本語学習の動機づけ
- アニメ・マンガに現れるキャラクターやジャンルの日本語表現を
  アニメ・マンガの世界の中で楽しく学べる
- 英、西、中、韓、仏

練習教材や自習用に！

活用例　アニメ・マンガの日本語

eラーニング：「アニメ・マンガの日本語」キャラクター表現、場面別表現
対 象 者　：初級～初中級（A2-B1）レベル
学習目標　：① キャラクターによる表現の特徴を知り、なりきって話すことができる
② 短いストーリーマンガを読み、あらすじを理解できる。

学習の流れ：
① 「アニメ・マンガの日本語」のCharacter Expressionsの女の子と男の子の表現の例で特徴を説明する（マンガに現れる例で）
② 「アニメ・マンガの日本語」のSchool Expressions by Sceneのマンガを配布し、各自またはグループで読む
③ 全体でストーリーについて場面ごとに確認する（内容確認のQ&Aやキャラクター表現探しも）。セリフ、オノマトペ等は音声でも確認する
④ グループで役割を決め、キャラクターになりきって、話す。グループで練習して、アテレコのようにマンガ場面と合わせて発表する

日本語学習ポータルサイト NIHONGO eな

自律学習

https://nihongo-e-na.com/

- 日本語学習に役立つサイトやツールを紹介するポータルサイト
- サイト検索機能とわかりやすい紹介記事
- アプリも紹介

自習用に！

体験しましょう！
JF日本語学習サイト＆アプリ

グループワーク
eラーニング教材の活用方法を考える

1．どのサイト、アプリ、コースを活用するか決める

サイト、アプリ、コース、教科書、SNS等、組み合わせる？

2．対象者、学習目標を決める

日本語レベル、学習の狙い、何ができるようになる？

3．学習の流れを考える

授業前、授業中、授業後？学習内容と流れは？

発表＆意見交換

本日の目標 <達成確認>

- 国際交流基金（JF）が作った日本語学習のためのeラーニング教材について知る
  → 学習者に紹介できる
- 日本語教育現場でのeラーニング教材の活用アイデアを得る
  → 教育現場で活用できる

日本語学習のためのeラーニング

最新情報は…

公式サイト
KC：http://www.jfkc.jp/

facebook
@JFKansai

KCクリップ

http://jfkc.jp/clip/

- eラーニング教材の日本語教育現場での活用アイデアや授業教材を公開

みんなの教材サイト

https://minnanokyozai.jp/

教師用
教材

- 日本語教師支援のための素材提供型サイト（2018年5月リニューアル）
- ９つのカテゴリーの素材
  教室活動、読解、イラスト、写真、動画、教師向け文法解説、教授法、授業のアイデア、授業案
- Can-doで目標設定した素材が充実

シンポジウムの点景

1

2

3

4

5

6

一般発表

一般発表時間

日時：3 月 1 日（金）　16：00～18：00

時　間	発　表　者	所　属	タ　イ　ト　ル
16：00～16：25	佐藤　梓	北海道大学	メキシコの日本語学習の動機づけ －4 地域の調査結果の分析－
16：30～16：55	江原　真実	無所属	日本語授業内におけるスペイン語使用
17：00～17：25	鈴木　小百合	神田外語大学	グアダラハラ圏内在住日系人の日本語能力調査について
17：30～17：55	平田　好	国際交流基金 メキシコ日本文化センター	オンライン授業実施のための日本語教師研修 －ニカラグア中米大学日本語教師を対象とした事例より－

Horario de presentación general

Fecha y hora: viernes 1 de marzo, de 16:00 a 18:00 hrs.

Hora	Ponente	Pertenencia	Tema
16：00～16：25	Azusa Sato	Universidad de Hokkaido	Motivación de los estudiantes del idioma japonés en México: Análisis de las investigaciones en cuatro regiones.
16：30～16：55	Mami Ebara	Independiente	El uso del español dentro de las clases de idioma japonés.
17：00～17：25	Sayuri Suzuki	Universidad de Kanda Estudios Internacionales	La Competencia del Idioma Japonés entre los Nikkei que viven en la Zona Metropolitana de Guadalajara.
17：30～17：55	Yoshimi Hirata	Fundación Japón en México	Capacitación de profesores de japonés para dar clases en línea - Del caso de los nicaragüenses - Profesores japoneses de la Universidad Centroamericana

メキシコの日本語学習者の動機づけ

－4 地域の調査結果からの分析－

北海道大学　佐藤梓

１．背景

これまで、海外で日本語を学ぶ目的に関する調査は、さまざまな地域で行われている。学習者の学ぶ目的を教師が回答したもの（国際交流基金 2017）や外国語習得の観点から行われているものなどがある。メキシコでは、大学などの卒業に必要な単位ではない場合や選択必須であっても日本語を選択しなければならない状況ではない場合が多く、日本語学習者の学習意欲は高いと言われることが多い。海外の日本語教育機関調査の最新の調査結果（国際交流基金 2017）では、メキシコの日本語学習者数は世界で 23 位であり、同調査結果の 25 位までの他の国や地域は中等教育や大学主専攻などが多いが、メキシコの場合、学校教育や大学の主専攻であることは少なく、これは当地の特徴であると言える。さらに、メキシコでは社会的に日本語の必要は低く、外国語としては英語が最も優位である。日系企業の進出やその存在が学習者増加の理由として指摘されることもあるが、これにはかなりの地域差がある。

動機づけ研究については、長年さまざまな理論や観点から行われてきている。本研究では、なぜ行動が起こるのかを「目的－手段」の軸で分け、「内発的動機づけ（学習対象そのものに動機づけられた状態）」と「外発的動機づけ（外的な要因によって動機づけられている状態）」から説明する理論を軸とし、特にメキシコの学習者が「内発的動機づけ」が高い状態である可能性が示唆されることを考慮した上で調査を行った。「内発的動機づけ」は、目指される状態として捉えられており、その内容を分析した研究はこれまであまり行われていない。そのため本研究では、内発的動機づけとして挙げられる「知的好奇心、興味・関心、楽しさ・おもしろさ」に注目し、分析を試みた。

２．目的と方法

これまでメキシコの学習者の動機づけを学習者に直接調査した研究はなく、その実態は明らかではない。そのため、本研究では社会的に必要性が低い日本語をなぜメキシコの学習者は学ぶのかについて検討した。本稿では、日本語そのものの何に興味を持っているかをできだけ数多く収集し、その内容を分類し、特徴を探ることを目的とした 1 地域における 2016 年の質的な調査、および、2017 年に実施した 4 地域における量的な調査から得られた結果を報告する。

2016 年調査の分析には、断片的な複数のデータをまとめる KJ 法（川喜田 1967）を用いた。2017 年調査では、一般性を担保した結果を得るため学習動機の 2 要因モデル（市川 1998）を参考に尺度を作成し、各項目の評定平均値の比較や因子分析を用いて量的な分析を行った。

本研究の調査対象者は、メキシコの大学で日本語を学ぶ学習者である。対象者には、高校生や社会人も含まれるがその多くが大学生である。調査概要については、次頁の表に記す。

３．分析結果と考察

日本語そのものへの興味については、文字／音／表現／文法／言語一般／スペイン語または他の外国語との違い／文化／複雑さの８つに分けられた。学習歴による違いを検討したところ、言語一般への興味は学習歴１年未満のグループのみから報告され、スペイン語または他の外国語との違いへの興味は、学習歴１年以上２年未満のグループと学習歴２年以上３年未満のグループから得られた。ただし、同じカテゴリーでもその記述内容には異なりがあり、単にその「違い」が興味の対象として記述されたものと、「母語と強い関連がない難しい言語が好きで、それができるようになるのが目標だから」のように、違いが「挑戦」と関連しているものとがある。また、学習歴の長いほうが、興味の内容と「使用」に関連があり、学習歴が短い場合には、新奇性からの興味や母語との異なりからの興味が見られた。また、日本語の複雑さや異なる文字体系は、メキシコの学習者の学習動機を低減させるものではなく、むしろ、それらへの「興味」が内発的動機づけとなり得ることが示された。一方、興味の内容には日系企業の有無による顕著な違いは見られなかった。

日本語学習への動機づけ調査からは、全般的に動機づけが高いことが示された。ただし、因子分析による動機づけ構造と評定平均値を分析した結果、日本語使用に対する自尊感情、学習の有用性、知的訓練と学ぶことの面白さには強く動機づけられていると言えるが、知識技能の獲得、他言語と他者のためにはあまり動機づけられていない傾向にあることが明らかになった。また、日本語を学ぶことに対し、将来の仕事や経済的な将来性の保証がなくても、期待を持っていることが示唆された。地域差については、動機づけ傾向に顕著な異なりはなく、日系企業の有無が学習動機に直接的に関連しているとは考えにくいと言える。

４．まとめと課題

本研究では、本調査対象者のように、主・副専攻ではなく自ら選択して日本語を学ぶ学習者の中には、必ずしも進歩や熟達を志向しない学習者や言語を手段として使うことを第一目的としない学習者が存在することが示唆された。これについては、教師が学習者の学習目的や志向を十分理解することの重要性を示すものであり、教師が自らの判断基準だけで学習者を評価しないことが肝要であることを示している。

また、動機づけ調査から得られた「動機づけ」や「興味」をどのように実際の教育に取り込むかについては、今後の課題としたい。

表．2016 年および 2017 年調査の調査概要

時期	調査対象と内容
2016 年 3 月	メキシコ北東部の 1 地域　計 61 名 目的：日本語そのものへの興味の収集と分類／スペイン語自由記述／質問内容「日本語のどのようなところが面白い、または好きだと思うか」
2017年 3月	メキシコ 地域の国　日本語の4公立大学の学習者(調査 513 名、分析対象 458 名)分析対象内訳：首都圏 A学131名、北東部 B学127名、中部C学93名、東部D学107名 目的：4 地域における動機づけ調査／スペイン語・6質問／質問目：的心（6目）、味」項目（計31目）、習動機（22目） 件法による項　知好奇 項　日本語への「興　項　日本語学　項

なお、本稿は、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院に、提出した博士論文「外国語学習環境における日本語学習動機－メキシコの日本語学習者を対象とした分析から－」の一部である。詳細は、北海道大学学術成果コレクション HUSCAP(https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/index.jsp)にて参照されたい。

参考文献：

市川伸一・堀野緑・久保信子（1998）「学習方法を支える学習観と学習動機」市川伸一（編著）『認知カウンセリングから見た学習方法の相談と指導』186-202, ブレーン出版

川喜田二郎（1967）『発想法－創造性開発のために』中公新書

国際交流基金（2017）『2015 年度海外日本語教育機関調査集計表』CD-ROM

日本語授業内におけるスペイン語使用

江原　真実（無所属）発表者

福田　真弓（大阪観光大学日本語別科）

共同研究者

一般発表報告

言語学習（ここでは特に英語教育）において、授業内で学習者の母語の使用をすべきかどうかは多くの研究者、教育者によって議論されてきた。長年の間、オーディオリンガル・メソッドなどに代表される直接法が教授法の主流であった。しかし、近年ある特定の環境下で母語の使用は学習成果につながるのではないかという研究が発表されはじめた。そこで研究者たちは、学習者・教師が母語の使用に対してどのような意見を持っているのか調査した。

日本でも大学レベルにおいて母語使用に関する研究が行われた。Burden（2000）において、学生・ネイティブスピーカーの英語教師は母語使用すべきか否かまたいつ母語が使用されるべきかについて学生にアンケート調査を行った。学生と教師の意見が合致すれば、学習成果の向上が期待されるという観点から、Burden（2001）では、教師にも同内容のアンケートを行い、双方の意見の一致・不一致を調べた。その結果、文法説明をするとき、クラスでの指示を行うとき、クラスのルールについて話すとき、アクティビティーをする目的を説明するとき理解度をチェックするとき、人間関係を築くときの 6 つの項目で意見の不一致が確認された。しかし、この Burden（2001）では、ネイティブスピーカーの英語教師の意見のみを聞き、日本人英語教師の意見は聞いていない。またメキシコ国内、ラテンアメリカにおいて、このような研究はほとんど行われてこなかった。

そこで、本研究では、メキシコシティ内の 2 つの日本語学校で日本語を学習しているメキシコ人日本語学習者 252 人、ネイティブスピーカーの日本語教師 12 人、ノンネイティブスピーカーの日本語教師 7 人にアンケート調査を行い、日本語授業内でのスペイン語使用についてどのような意見を持っているのか、また学生と教師の間でどのような意見の差異が見られるのかを分析することにした。

アンケート調査によって、学習者、ネイティブスピーカーの日本語教師、ノンネイティブスピーカーの日本語教師ともに教室内でなんらかの母語使用を望んでいることがわかった。また、結果からスペイン語の使用場面に意見の不一致が確認された。学習者と教師全体では新出語彙の説明をするとき、クラスでの指示を行うとき、文化について話すとき、クラスのルールについて話すとき、アクティビティーをする目的を説明するときの 5 つの項目において不一致が確認できた。学習者とネイティブスピーカーの日本語教師においては、教師は学習者のスペイン

語を知っておくべきだ、新出語彙の説明をするとき、クラスでの指示を行うとき、文化について話すとき、テストについて話すとき、クラスのルールについて話すとき、アクティビティーをする目的を説明するとき、人間関係を築くとき　の 8 つの項目において不一致が、学習者とノンネイティブスピーカーの日本語教師との間には新出語彙の説明をするとき、テストをする（学習者の能力をはかる）とき、理解度をチェックするとき、学生をリラックスさせるとき、人間関係を築くときの 5 つの項目において不一致が見られた。以上のことから、教師はスペイン語使用の需要があることを理解し、各クラスにおけるスペイン語の使用場面を学習者のニーズに応じて変えていくことが望ましいのではないかということが示唆された。

ほとんどの学習者がスペイン語の使用を望んでいたが少数ながら、日本語のみでの授業を望む学生も存在した。代表的な意見としては「日本語及び日本文化に完全に浸み込めるように。外国語は訳すより、その外国語の実質を感じて、基本や考え方をゼロから作ったほうがいいと個人的に思う。」や「日本語の聴解力・理解力を引っ張るために。」という意見があった。

しかしながら、今回の調査における被験者数は限られており、メキシコ全体の意見であるとは言い難い。また、学習者のレベルによる違いを考慮していないことや教師の経験年数が反映されていないことなどは今後の調査における課題であろう。

参考文献

Burden, P. (2001). When do native English speaking teachers and Japanese college students disagree about the use of Japanese in the English conversation classroom? *The Language Teacher, 25*(4), 5-9.

Burden, P. (2000). The use of students' mother tongue in monolingual English conversation classes at Japanese universities. *The Language Teacher, 24*(6), 5-11.

グアダラハラ圏内在住日系人の日本語能力について（簡易版）

鈴木小百合

（神田外語大学グローバル日本語センター/グアダラハラ大学日本研究センター）

１．研究の目的

本研究は、グアダラハラ大学日本研究センターおよびグアダラハラ日墨協会の共同で実施された「グアダラハラ圏内日系人口調査」の中から、日系人の日本語能力についてのデータを分析、考察し、今後の継承語としての日本語教育及び保持に役立つ知見を得ることを目的としたものである。

２．調査の概要

2018 年 2 月から 8 月にかけて 116 世帯 341 人（有効回答 310 人）を対象に調査票によるアンケート調査が実施された。そのうち、日本からの直接移民である新一世[3]および非日系の配偶者もしくはパートナー等を除く 216 人を研究の対象とする。同調査の個人票調査項目のうち「日本語の知識」「技能別日本語能力」「日本語学習への興味」「日本語学習の目的」「日本語の学習機関」についての結果を取り上げる。

３．調査の結果

今回の調査結果から、次のことが明らかになった。

1　旧世代は世代を追うごとに日本語知識保持者が減少し、四世で半数以下になるが、新世代は、新三世でも 8 割が何らかの知識を保持している
2　「読む・書く」能力は、旧世代よりも新世代の方が高いレベルで保持している一方で口頭能力は、新旧どちらも二世は高い能力を有するが、三世以降は非常に限られた能力にとどまっている
3　旧二世[4]以外の全世代は、新旧共に 7 割程度が日本語学習に意欲的で、その目的は、旧世代は「個人的関心」「アイデンティティ」の順で、新世代は「家族とのコミュニケーション」が多い
4　日本語の学習機関は、旧世代は家庭での指導が多いのに対して、新世代は日本人補習授業校や語学学校などの教育機関が多い

４．考察

こうした結果から、今後の日系人の継承語としての日本語能力の習得及び保持を促進するために次のような示唆が得られた。

まず、4 技能のバランスを保つために、テキストを使用した教育機関による体系的かつ継続的な日本語教育が必要である。次に各人の学習目的を考慮し、日本文化や歴史を学び、体験する学習活動を採り入れた参加型学習の充実が望まれる。そして、地域の日系コミュニティを活

性化し、日本語の使用機会を創出することは、学習への動機づけとともに実践的な能力の発達につながり、より高度な運用能力の獲得が期待されると考えられる。

５．結論

本研究では「グアダラハラ日系人口調査」のうち、日系人の日本語能力について分析し、考察した。今後、継承語としての日本語能力を習得および向上、保持させるために、以下の 3 点の実施を提案する。

1　教育機関による体系的かつ継続的な日本語教育
2　日本文化や歴史を学び、体験する学習活動
3　地域の日系コミュニティの活性化による日本語の使用機会の創出

６．今後の課題

今回の調査では、世代ごとの平均年齢や人数などに相違があり、世代間の比較は公平とは言えない。今後は、調査対象者の属性をさらに絞り、統一グループ間での比較ができれば、より厳密な分析が可能である。また、日本語能力については統一した基準によるレベル判定が難しい場合、半構造化インタビューによる個々の状況の把握が望ましい。さらに、個々の学習歴についてのデータも収集し、継承語としての日本語学習に一層効果的な方法を提案したい。

最後に、今回私たちに貴重な機会をくださり、ご協力くださったグアダラハラ圏内の日系人とそのご家族の方々に感謝したい。そして、今回の日系人口調査が今後、日系人コミュニティの一層の活性化に役立てば幸いである。

---

[1] 「グアダラハラ都市圏」とは「グアダラハラ市」「サポパン市」「サン・ペドロ・トラケパケ市」「トナラ市」「エル・サルト市」「トラホムルコ・デ・スニガ市」「イストラワカン・デ・ロス・メンブリージョ市」「フアナカトラン市」、「サポトラネホ市」の９つの都市圏を示す。

[2] 海外日系人協会によると、日系人とは「日本から海外に本拠地を移し、永住の目的を持って生活されている日本人並びにその子孫の二世、三世、四世等で国籍、混血は問わない」という。

[3] 本研究では、第二次世界大戦前に渡墨した人およびその子孫を旧世代、大戦以降に渡墨した人を新世代と呼ぶ。

[4] 旧二世の平均年齢は 77 歳であった。

＜参考文献＞

書籍

中島和子 (2016) 『完全改訂版バイリンガル教育の方法』アルク
日比谷潤子 (1997) 「二世の言語変容」『リマの日系人』明石書店, 75−95

雑誌

佐々木倫子(2003)「3 代で消えない JHL とは？－日系移民の日本語継承」母語・継承語・バイリンガル教育研究会
野津隆志他 (2014) 「外国にルーツを持つ家庭における母語使用の実態と課題」『国際教育評論 No. 11』東京学芸大学国際教育センター
彦坂佳宣 (1997) 「日系アメリカ人の言語的状況とエスニシティーカリフォルニア日系人を中心として－」『言語文化研究紀要 8 巻 5・6 合弁号』

インターネット資料

海外日系人協会 (2017) 「日系人について知ろう」http://www.jadesas.or.jp/aboutnikkei/index.html (2018 年 12 月 21 日参照)
外務省統計 (2018) 「海外在留邦人数調査統計」https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/page22_000043.html (2018 年 12 月 21 日参照)
グアダラハラ補習授業校「転入学の案内」https://colegiojaponesgdl.jimdo.com/ (2018 年 12 月 21 日参照)
国際協力機構 (2017) 「メキシコ移住の第一歩」『海外移住資料館だより 47 号』https://www.jica.go.jp/jomm/newsletter/pdf/dayori47.pdf (2018 年 12 月 22 日参照)
鈴木小百合 (2018) 「メキシコにおける継承語としての日本語教育」『第 23 回メキシコ日本語教育シンポジウム紀要』https://docs.wixstatic.com/ugd/5ca4e3_7b549465f4c24a41a79757fbb232ba58.pdf (2018 年 12 月 21 日参照)
総務省統計局 (2010) 「国勢調査からわかったこと」http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/users-g/wakatta.html#jump2（2018年12月 21 日参照)
法務省 (2011) 「国籍の選択について」http://www.moj.go.jp/MINJI/minji06.html (2018 年 12 月 21 日参照)
Akemi Kikumura Yano (2014)「日系メキシコ移民略史」『ディスカバー・ニッケイ』http://www.discovernikkei.org/en/journal/2014/4/11/mexico/?show=ja（2018年12月 21 日参照)

オンライン授業実施のための日本語教師研修

―ニカラグア・中米大学日本語教師を対象とした事例より―

平田 好（国際交流基金メキシコ日本文化センター）

1．前提

ICT の発達に伴い、日本語教育分野でも e-learning 教材やオンライン・コース開発が活発に行われている。一方、学習者のネット利用状況調査、オンライン・コース開発に関する報告はあるが、オンライン授業を実施するための日本語教師研修の報告は管見の限りない。今後、需要が高まると考えられるオンライン授業実施にあたって知見を共有することは日本語教育に裨益すると考え、ニカラグア・中米大学でオンライン授業を実施するための日本語教師研修の実践を報告する。

2．研修実施の経緯

同大学言語センターは同国唯一の日本語教育機関である。1993 年より日本語教育を開始し、1995 年以来 JICA ボランティアが派遣されニカラグア人日本語教師の育成にあたってきた[1]。非母語話者教師がコースを安定的に運営する体制となり、中米カリブ地域の日本語教育を牽引する立場となっている。しかし同国では 2018 年 4 月より反政府デモが頻発。政府が暴力的に取り締まったことより多くの市民が死亡し、危険度があがった。5 月より同国内の大学は閉鎖され授業が中断した。日本語授業を継続できない状況を憂慮した教師が、言語センター長及び在ニカラグア日本国大使館の広報文化担当官と相談し、オンライン授業の可能性を探った。しかし、同センターではオンライン授業の経験も知見もないため、教師研修が必要と判断し、報告者にオンライン授業実施のための研修を企画実施するように依頼がなされた。

3．研修の概要

・実施期間:2018 年 8 月 29 日（火）～9 月 21 日（水）
・会場:オンライン（ZOOM 利用）＊政情不安により出張による対面型研修が不可
・目標:中米大学言語センターにて実施していた集合型対面授業と同等の内容を日本語学習者に提供できること。
・企画・設計・講師:報告者
・研修参加者:中米大学日本語教師 5 名（全員ニカラグア人）
・講師主導の研修:　全 8 回（13 時間）
　①e-learning 概観（同期型・非同期型の長所・短所、具体例等）、②同期型オンライン授業実施のためのツール使用方法、③対面授業からオンライン授業への移行で想定される課題の解決方法、④対面授業で使用してきた教材のオンライン授業使用、⑤実習（模擬授業実施）（4 時間）⑥実習ふりかえり（2 時間）、⑦オンラインによる試験実施方法、⑧評価での留意点、⑨まとめ　＊⑤⑥以外は、各 1 時間
・自主研修:　12 時間
　①～④および⑧⑨各 1 時間の前後に、予習（指定教材の読解）各 1 時間、復習（課題遂行および提出）各 1 時間。　＊合計研修時間: 25 時間

４．研修内容

まず e-learning 及びツールを概観した後に、研修参加者は自らの教育現場で蓄積したリソースをオンライン授業で活用する方法、また学習者が容易に参加できる方法を検討した。教案作成のうえ、同期型、非同期型、対面授業の特性を活かしたハイブリッド型コースを検討。教案を作成し、ZOOM を利用した同期型 e-learning による模擬授業が行われた。なお研修参加者は従来、集合型対面授業で教材（『まるごと 日本のことばと文化』）を加工した PPT を作成して教室内白板に投影し、必要に応じて学習者にも板書をさせていたため、同一 PPT のオンライン使用が可能であった。模擬授業では技術的課題もみつかったが、実習ふりかえりや自主研修で解決の方向を見出した。

５．研修実施後の状況

中米大学では 2018 年 7 月に学部授業の一部が再開。9 月に言語センター日本語コースは土曜クラスを再開した。10 月以降、土曜クラスの補講は同期型**オンライン**授業で実施されている。ただし 2019 年 3 月現在、平日夜間クラスは依然として休止中である。その代替として、非同期型 e-learning プラットフォーム[2]の既成教材「まるごと自習コース」と、ZOOM を利用した同期型 e-learning（中米大学教師によるライブレッスン）を組み合わせたコースを 2019 年 4 月より試験的に開講する準備が進んでいる。

６．まとめと課題

高等教育分野では、各大学独自の e-learning プラットフォーム利用が進んでいるが、言語教育分野、特に日本語教育のプラットフォームは認知されているとは言い難い。しかし、e-learning プラットフォームは教育現場の状況によってさまざまな利用方法が考えられる。移動の自由の阻害、教室確保の困難化が発生した場合、非同期型 e-learning による独習と、同期型 e-learning による集合型学習（ライブレッスン）あるいは教室における集合型対面学習を組み合わせた日本語コースの存在は大きな意義がある。また居住地域に日本語教育機関がない学習者に対しては、独習以外の方法を提供することになる。今後、「JF にほんご e ラーニング みなと」をはじめとするプラットフォームの認知度向上を図るとともに、非同期型と同期型 e-learning 組み合わせたコースを企画・運営できる日本語教師を育成するべく研修開発を行っていく予定である。

[1] https://www.idobata.online/?p=1192　黒田直美「７つの海のむこうで　第 1 回ニカラグア」日本語教育いどばた（最終閲覧日:2019 年 3 月 13 日）

[2] https://minato-jf.jp/　国際交流基金「JF にほんご e ラーニング　みなと」（最終閲覧日:2019 年 3 月 13 日）

ポスターセッション

ポスターセッション時間

日時：　3月3日（日）　12：00～13：00

発　表　者	所　属	タ　イ　ト　ル
鵜飼　香奈子 ダニエル・ガルシア	国際交流基金 メキシコ日本文化センター 日墨協会	「まるごと教師サポート付きコース」の運用と成果－メキシコ日本文化センターでの試み
加納　雅美	早稲田大学大学院	交流を目指した地域日本語教室活動の試み
佐藤　慎司	プリンストン大学	初級レベルにおける教室外でのオンラインコースコミュニケーション異文化体験：問題発見解決と中級に向けての自律学習
大和　文子	早稲田大学大学院	日本語の教室と教師の役割についての一考察 －移動する元学習者のライフストリーから－
アントニア・ルイサ・リバス ファン・アンドレス・ モラン セシリア・ガブリエラ・テレス 松田　涼子	エル・サルバドル エル・サルバドル ニカラグア 国際交流基金 メキシコ日本文化センター	中米カリブ日本語教育ネットワーク10.年の歩み

Horario de sesión de póster

Fecha y hora: domingo 3 de marzo, de 12:00 a 13:00 hrs.

Presentador	Pertenencia	Tema
Kanako Ukai Daniel García	Fundación Japonesa Asociación Nichiboku	Operación y resultados del curso de japonés en línea “Marugoto, curso con tutor” -Realizado por la Fundación Japón en México-
Masami Kanou	Universidad de Waseda	Attempts on community Japanese classroom activities aiming at exchange. - Aiming to create a place to prompt dialogue in Japanese –
Shinji Sato	Universidad de Princeton	Online Intercultural Communicative Experience for Beginning-Level Japanese Learners Problem- Solving and Autonomous Learning
Humiko Yamato	Universidad de Waseda	The Role of Japanese Language Teachers : From the Lifestory of Learners crossing borders
Antonia Luisa Rivas Juan Andrés Morán Cecilia Gabriela Téllez Ryoko Matsuda	El Salvador El Salvador Nicaragua Fundación Japón en México	Red Centroamericana y del Caribe para la Enseñanza del Idioma Japonés, 10 años de progreso

日本語オンラインコース「まるごと教師サポート付きコース」の運用と成果

－国際交流基金メキシコ日本文化センターでの試み－

鵜飼香奈子（国際交流基金メキシコ日本文化センター）
ダニエル　ガルシア　（日墨協会日本語教室）

1. 背景と目的

2016 年 7 月より国際交流基金関西国際センター（以下、JFKC）が運用している学習管理システム（LMS）を備えた日本語学習者のためのプラットフォーム「JF にほんご e ラーニング みなと」（以下、「みなと」）において、メキシコの登録者数は 6026 名（2019 年 2 月現在）で世界第一位である。「みなと」のメインコース「まるごと日本語オンラインコース」には「自習コース」と「教師サポート付きコース」があり、国際交流基金メキシコ日本文化センター（以下、JFMC）では 2017 年より「まるごと A1-1（かつどう・りかい）教師サポート付きコース」（以下、A1-1 コース）、「まるごと A1-2（かつどう・りかい）教師サポート付きコース」（以下、A1-2 コース）を開講、2018 年には「まるごと A2-1（かつどう・りかい）教師サポート付きコース」（以下、A2-1 コース）を順次開講している。本稿では、JFMC における「まるごと教師サポート付きコース」の特徴及び運用とその結果、問題点と今後のメキシコにおける日本語オンラインコースの可能性について報告する。

2. コースについて

JFKC が運用する「まるごと教師サポート付きコース」に倣い、JFMC「まるごと日本語オンラインコースサイト」では自学自習に加え、①課題の添削、②ライブレッスン、③オーラルテスト、④グループ運用、⑤教師からのお知らせと教師による 5 つのサポートが付いたコースである。クラス担任制としており、学習期間は約 3 ヶ月、ライブレッスンは 2 週間に 1 回、1 クラス 7～8 名、解説言語はスペイン語とし配布資料やライブレッスンでの説明の際にスペイン語を使用している。評価は「まるごと日本語オンラインコースサイト」での学習、及び全てのライブレッスン終了後、オーラルテストを行っている。またライブレッスンの Web 会議システムには、操作が容易で学習者の使用する機器やインターネット環境において制限の少ない Zoom（https://zoom.us/）を使用している。

3. コースの運用結果・成果

2017 年度は A1-1 コースを 2 回、A1-2 コースを 1 回開講、2018 年度は A1-1 コースを 3 回、A1-2 コースを 3 回、A2-1 コースを 1 回開講した。コースの開講日程、応募者数、定員数、採用人数、倍率は表 1 のとおりである。応募者の中から、「みなと」の目的である地理的、時間的制約のために日本語学習の機会がなかった人への機会提供となるよう、当センターが把握している限りではあるが日本語教育機関が無い地域の居住者を優先的に受講者として選んだ。また 2017 年 9 月のコースではメキシコ国内在住のスペイン語話者のみを対象としたが、中南米スペイン語圏からの応募者も多く、また国際交流基金サンパウロ日本文化センターではポルトガル語でのサポートとなるため、2018 年 1 月のコース以降は中南米スペイン語圏の学習者も対象としている。

2017年9月	A1-1	55	256	47	358	10	10	35.8
2018年1月	A1-1,A1-2	202	419	12	633	20	48	13.19
2018年5月	A1-1,A1-2,A2-1	213	115	8	336	30	55	6.11
2018年9月	A1-1,A1-2	124	139	4	267	25	43	6.21
2019年1月	A1-1,A1-2	273	148	4	425	23	51	8.33

コース修了時には任意でアンケートを行い、回答のあった 50 名については「今回のコースは全体として満足のいくものでしたか」という問いに対し、「非常に満足」は 47 名、「まあまあ満足」は 3 名と回答した。また教師によるサポートについては「ライブレッスン」は学習者の 98%が「とても役に立っている」、「課題の添削」は学習者の 92%が「とても役に立っている」、「グループ参加」は学習者の 66%が「とても役に立っている」と回答した。また学習継続という点において、教師のサポートが全くない「自習コース」の 2016 年 7 月開講の A1-1 コースで 8%、A1-2 コースで 11%（千葉ほか 2018）であったが、JFMC　2017 年 9 月開講の A1-1 コースで 42.9%、2018 年 9 月開講の A1-1 コースで 26.7% 、A1-2 コースで 46.2%といずれも「自習コース」の修了率を大きく上回る結果となった。

4. 今後の課題

今回 JFMC が日本語オンラインコースを開講することで、メキシコ国内において一定数の日本語学習者が教育機関に属さずオンライン上で日本語を学習しており、また「教師サポート」があることは、学習者の日本語学習継続に寄与することも明らかとなった。しかしながら、メキシコのオンライン日本語学習者の学習目的や動機、学習者の実態については十分な調査が行われていない。今後、メキシコにおけるオンライン日本語教育の振興を図り、また適切な支援を行うためにもメキシコのオンライン日本語学習者についてのより詳しい調査を早急に行う必要があると考えられる。

＜参考文献＞

千葉朋美・武田素子・廣利正代・笠井陽介（2018）「まるごと（A1）教師サポート付きコース」の運用と成果－オンラインコースにおける学習支援－」『国際交流基金日本語教育紀要』第 14 号、51-65

武田素子・熊野七絵・千葉朋美・笠井陽介・石井容子・前田純子・北口信幸（2017）「まるごと（A1）日本語オンラインコース」サイトの開発」『国際交流基金日本語教育紀要』第 13 号、133-140

交流を目指した地域日本語教室活動の試み
―日本語での対話をうながす場づくりをめざして―

加納　雅美（早稲田大学大学院日本語教育研究科）

本事例は、日本において、様々な背景を持った参加者同士が日本語教育を媒介として交流し相互理解を進める場づくりを目指した試みである。メキシコでの日本語教育活動においても様々な主体が学び合う場づくりの参考にしていただければ幸いである。

地域日本語教室をめぐる社会的背景

日本の地域日本語教室（以下「地域教室」という。）は、1970 年代以降の中国残留邦人の帰国やインドシナ難民の受入、1990 年入管法改正などを契機に、様々な背景を持った外国ルーツの方を対象にした地域支援活動がそのおこりである。地域によってさまざまな実施主体があるが、ベースとなる担い手は、ボランティアである地域住民であり、その「熱心さ」に支えられた活動と言えよう。

この地域教室では、近年、新たな動きがみられる。日本国内の外国人労働者数は年々増加している[1]が、この影響で一部の地域教室に多くの技能実習生が訪れるようになっている[2]。彼らは、帰国後に就職に有利という理由から「日本語能力試験に合格したい」と言うことから、活動内容が「生活者としての外国人」を意識した活動というより「試験対策化」が見られ、「住民同士の相互交流・理解」といった活動になりにくい状況が見受けられる。

「対話・交流型教室活動」の試み

筆者が関わる地域教室[3]においても、技能実習生の増加と学習内容の変化がみられる。また、この教室の固有の問題として、教室活動が〈特定の学習者＋特定のボランティア〉といった固定ペアのみに閉ざされ、他の参加者と交流機会がほとんどない、という状況があった。このことから、教室主催者に働きかけ、2018 年 10 月から、月 1 回の頻度で、「対話・交流型教室活動」を新設・開催することにした。

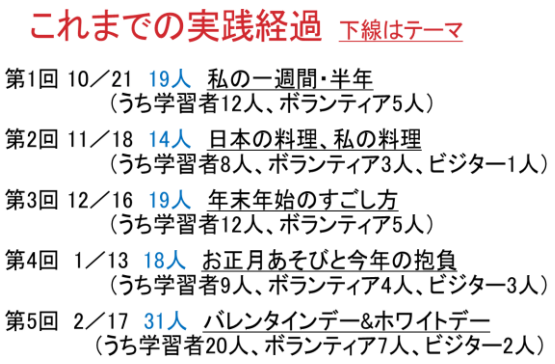
本活動で目指したのは①多文化共生の地域づくりの拠点（相互交流・相互理解）、②参加者が対等な関係を築く場③母語話者と非母語話者の間で交わされるやりとりを通して場所的に創造されていく日本語（共生日本語）（岡崎 2008）を扱う場④活動を通じて参加者が社会に参加していく場、の 4 点を、場づくりの目標として設定した。

参加はその都度の申込、つまり参加者は流動的である。学習者もボランティアも通常のペア活動に関わらず参加できる。また普段この教室に関わっていないビジターも参加できる。事前申し込み制を採るが、当日参加も可能と設定とした。

教室活動を組み立てるにあたり「にほんご わせだの森」（池上 2009）をモデルとした。すなわち、「多様な役割を持つ多様な参加者」「参加者が伝えたいと思える内容」「伝えたいことを伝え合う活動」を目指した。

これまでの実践践経過

1回の活動は90分、①自己紹介ワークショップ、②本活動のテーマに沿ったアイスブレイク③本活動（グループワーク）④全体シェアという流れで構成している。本活動のテーマは、参加者が伝えたいと思える内容を考慮し、誰でも興味を持ちやすく、また季節の行事などを織り込んだものを設定した。



実践を通して見えてきた活動の意義

当初設定した「場づくりの目標」を検証する。まず、①多文化共生の地域づくりの拠点となっているかについて、これまでの参加者アンケート回答では「また参加したい」が 100%であることや、5 回全部に参加、あるいは夜勤前でも参加するといった活動に好意的な参加者が見られるようになったことから「毎月集う場ができた」ことが認知されつつあると考えられる。

②参加者が対等な関係を築く場という点について、学習者の「みんなに会ったり、みんなのことをきいたりしました。しらないことをききました。それはいいとおもいます。」、ボランティアの「私達はもっと積極的に彼らに近づいて話しかけることが大事。」、ビジター参加者の「外国の人と交流することはあまりなく交流できて楽しかったです。」といったアンケート回答から「教える－教えられる」といった上下関係ではなく参加者同士が対等な関係構築する萌芽が表れていると考えられる。

また、③共生日本語を扱う場となっているかについて、ファシリテーターである筆者が設定していなかった語い（例：恐縮、店長、三男、「薔薇」という漢字）を学んだ、という学習者や、「みなさんの日本語が上手だったのがびっくりしました。」というビジター参加者の声から「やり取りを通じて場所的に創造する」コミュニケーションが起こり、日本語を媒介とした相互の学び場となっていることがうかがえる。

「活動を通じて参加者が社会に参加していく場」を考える

ここで、4 つ目の目標について考えたい。これまでの 5 回の活動では、具体的に「教室外での活動」に発展した事例はなく「活動を通じて参加者が社会に参加していく場」になっているかどうかについては評価の分かれるところであろう。ここで、学習者の背景を再度確認する。彼らのほとんどは日本での滞在期限付き出稼ぎ労働者であり、日常的に職場の人（場合によっては同国人のみの環境）としか接点が無い環境で暮らしている。その社会とのわずかな接点である職場において、彼らは「日本人と仲良くなりたい」と考えている。しかし「仕事以外はみんな別の生活だから話しかけると迷惑かもしれない」といった日本人への配慮や自分の日本語力への自信の無さから「なかなか話しかけられない」という躊躇があることが、筆者が複数の学習者にインタビューをした結果からわかっている。

この活動は、「自分自身伝えたいことを伝え合う活動」をベースにしており、参加者の背景に関わらず自由にコミュニケーションする環境が保障されている。つまり、学習者であるかホスト住民であるかを問わず開かれた場であり、活動そのものが「社会に参加していく場」としての機能を果たしていると言えよう。こういった活動が地域に定着すれば、神吉（2016）が地域日本語教育の 1 つの機能として指摘する「地域コミュニティの分断による「パラレルワール

ド化」を防」ぎ「地域の多様な住民が相互に接点を持つ「場」として機能」（P107）を果たしていくと考える。

これからの社会動向と日本語教育に求められるもの

2019 年 4 月から新たな外国人材受入れ（在留資格「特定技能」等）が始まる。本事例のような、多様な住民による対話・交流型活動の場づくりは、人のグローバル化が予測される日本社会において今後ますます重要になっていくであろう。

また、このシンポジウムに参加して、日本の人材を受け入れる海外現場においても、同様の場が必要であることに気づいた。参加者からご示唆いただいた「メキシコにおける日本語学習者と在墨日本人家族との交流活動」がその好例である。日本語を媒介としたコミュニケーション活動が、異文化摩擦を回避し相互理解を促進させる効果があるならば、活動の場を提供している日本語教育の担う社会的役割は大きい。コミュニティにどういった場を創っていくか、引き続き実践・検討する価値があると考える。

厚生労働省発表の「「外国人雇用状況」の届出状況」によれば、2018 年 10 月末現在の外国人労働者は 146 万人で、前年同期比 18 万人・14.2%の増加であった。これは平成 19 年に届出が義務化されて以降、過去最高を更新している。

[2] 筆者が実施した「地域日本語教育コーディネーター研修（文化庁主催）」参加者など全国各地のコーディネーターを対象とした「地域日本語教育状況調査」（2018 年 11 月実施・23 団体回答）によると、技能実習生である住民が増加している地域のうち、72%の地域日本語教室で技能実習生の学習者が増加している。

[3] 該当の地域日本語教室は、自治体の外郭団体が運営する学習者 177 名、日本語ボランティア 127 名（いずれも 2018 年 10 月現在）の大規模教室である。

参考文献

池上摩希子（2009）「『教室』の解体が創出するもの―『にほんご わせだの森』の実践から考える対話の可能性―」『日本語教育の過去・現在・未来―第 3 巻教室』pp. 161-220. 凡人社

岡崎眸（2008）「日本語ボランティア活動を通じた民主主義の活性化－外国人と日本人双方の「自己実現」に向けて－」『日本語教育』138, pp14－23

神吉宇一（2016）「日本国内における地域日本語教育・外国人支援の現状と課題」本田弘之・松田 真希子編『複言語・複文化時代の日本語教育 わたしたちのことばとは？』 pp. 85 - 111 凡人社

初級レベルにおける教室外での
オンラインコミュニケーション異文化体験
―問題発見解決と中級に向けての自律学習―

佐藤　慎司（プリンストン大学）

ポスター発表報告

外国語教室の活動では、できるだけ学習した事柄を使用して学習言語だけで目的を遂行することを促進する場合が多いが、教室外のコミュニケーションにおいて、多言語話者がどの言語を用いて（あるいは混ぜて）どうコミュニケーションしていくかは、双方のもつ資源（言語資源、言語レベル、漢字の知識など）、様々な文化的知識、コミュニケーションの目的などによってその都度異なっていることがわかっている（久保田 2018、佐藤・佐伯 2017）。ただ、外国語教育において、言語を混ぜる活動はあまり推奨されない場合が多く、結果として教室外での学習言語を使ったコミュニケーション活動はある程度学習言語ができる中級レベルまで待つという場合が多い。上記の事実を鑑み、本発表では、外国語教育は異文化コミュニケーション教育の一分野であり、学習者は学習言語以外にもさまざまな資源をもつ多言語話者であると捉え、設計された実践を報告する。

この実践は、2017 年秋に米国の日本語初級の学生と日本の大学で日本語教育演習コースを履修する学生の間で Facebook を用いて行われた。活動では、学期後半に行われるビデオ作成プロジェクトの前段階として 4-5 人で構成されたグループメンバーをよく知ることを目的とし、交流が行われた。具体的な活動は、1）自己紹介を書く、2）お互いの共通点を見つける、3）ビデオチャットをする日時を決める、4）ビデオチャットで自己紹介をし、グループリーダーを決め、Facebook のカバーフォトを選ぶという手順で進められた。この交流では、双方の持つ資源を最大限に活かし、マルチモダルな要素（写真、ビデオなど）も活用し、そのリソースの一つとして日本語を使用することを推奨した。また、コミュニケーションの振り返りをする機会を何度も設け、そこで取り上げられた問題は授業活動で解決方法を考え、次のコミュニケーションの際に実際にその方法を試してみることを推奨した。

本発表では、Facebook での学生のやりとり、ビデオチャットの録画ビデオ、コミュニケーションの振り返りの記述やインタビューなどのデータを基に、学生たちがこの活動のコミュニケーションの際にどんなことに問題を感じ、どのように解決策を考え、問題解決を行なったかということに焦点を当てて分析を行った。本発表で紹介する事例はアーモン（日本語学習者）とみな（日本語教育演習履修者）の事例である。アーモンは、数学専攻、大学１年生で、言語の勘が鋭く、好奇心が強く、どんどん自分で学習し習得していくタイプ、みなは、外国語専攻：韓国に１年留学経験があった。このグループの Facebook では何度もやりとりがなされているが、日本語を見る限り翻訳機を使用したとわかるような表現もいくつかあった。そのような場合は、みなから「翻訳機を使っているのでしょうか、わかりにくいです」「English, please!」というコメントをもらうこともあった。このグループはグループでのビデオ作成も無事終了し、お礼の言葉を交わし合い、プロジェクトを終えている。しかし、プロジェクト終了後の日本語教育演習履修者のアンケートでみなは、一生懸命考えてコメントしていたのに、相手が翻訳機を使っているとわかってやる気がなくなったと書いている。それに対して、プロ

ジェクト中の振り返りと終了後のインタビューで、アーモンは、日英両表記だと英語しか見ないので、自分は翻訳機を使ってでもできるだけ日本語で挑戦したと述べており、ここに２人の言語学習に対する異なるビリーフ（外国語のクラスの活動では翻訳機を使うべきではない vs. 外国語のクラスではできるだけ学習言語を用いるべきだ）が見られることがわかる。本活動では、学習者は学習言語以外にもさまざまな資源をもつ多言語話者であると捉え設計したにもかかわらず、この活動が日本語と日本語教育演習の授業の一環として行われたことが二人の考え方の違いに大きく影響していたようだ。

ここで考えたいのは、ビリーフ、価値観の多様性についてである。上の事例にもみられるように、ビリーフ、価値観は人それぞれであり、どれが正しいとか間違っているという類のものではない場合も多い。事実、人と考え方が異なっていても、お互いに認め合う程度の承認でよければ、（何を持って承認したと捉えるかはさておいて）実現はさほど難しくないのかもしれない。しかし、社会で生きていくためには、お互いの多様性を認め合うというきれいごとだけではすまないこともよくある。したがって、ことばの教育における活動設計においては、お互いに違いを認め合うだけでなく、グループの中に存在する異なるビリーフ、価値観、意見の中からどれか一つを話し合いにより選び、何かを成し遂げていくという作業も必要であると考える。今回は、ビデオチャットの時間を決める、リーダーを決める、背景写真を選ぶという課題からはじまって、ビデオをともに作っていくという作業を行なっていった。

しかし、ここで新たに浮き上がってきたのは、自分の大切な問題に無関心な人にどうその問題に関心を持ってもらうのかという課題である。今回のみなは日本語学習者が翻訳機を使うことを問題だと感じてはいてもその問題を俎上に載せることは最後までなかった。問題を俎上に乗せるかどうかは、問題の性質や参加者との人間関係にも大きく影響される。今後、同問題を俎上に載せるのか、つまり、自分にとって大切な問題に無関心な人にどうその問題に関心をもってもらうのかという側面も取り入れたことばの教育活動も考えてみたい。

参考文献

久保田竜子(2018)『英語教育幻想』ちくま新書
佐藤慎司・佐伯胖(2017) 『かかわることば』東京大学出版会

日本語教師の役割についての一考察
―移動する元学習者のライフストーリーから―

大和　文子（早稲田大学大学院日本語教育研究科）

1）ライフストーリー研究について

ライフストーリー（以下、LS）研究は、社会学を中心に、伝統的な研究法―「史料」や「事物」等の「事実」から「社会的現実（リアリティ）」を探求する実証的研究法―に対し、残された「史料」や断片化された「事物」から「社会的現実」を再構成しても、生身の人間の生きざま（人間らしさ）が十分に反映されたとは言い切れないのではないかとの疑問が呈されるようになったことから、「史料」や「事物」からは見えにくかった「社会的現実」を、研究対象の当事者である人物へのインタビューをもとに再構成する研究法として発展してきた。（川上、2015）

日本語教育におけるLS研究は、インタビューから得られた学習者や教師の声の意味を考察し、日本語教育学の中に位置づけることを目的として行われている。対象となるのは日本語教師及び日本語学習者のほか、インタビューの経験それ自体、つまり、インタビューをすること、されることによって得られた聞き手、語り手の変容を考察対象とするものがある。（三代、2015）

2）私のライフストーリー研究

以下に筆者が現在調査を進めているLS研究から、調査協力者AへのLSインタビュー調査の一部を紹介する。

2-1）LSインタビュー調査協力者Aについて

Aは大学卒業後の2009年12月から、筆者が当時所属していたインドの都市Oの日本語学校など複数の日本語教育機関で学習を積み、インドで日系企業に関わる仕事を経験後、2014年知人のプロジェクト立ち上げを手伝うために来日、その後日本でI社に営業職を得、現在に至っている。まさに日本語と共にキャリアを築いてきた。

2-2）Aのストーリー

Aは2019年1月に、J社の本社（日本）から中国支社へ赴任し、現在、家族（妻と1歳3か月の息子）とともに中国の都市Zに在住している。中国には、腹を割って話せると信頼する先輩H（日本人）がいる。新たな土地でHと仕事ができることは、Aにとって楽しみの一つであったが、赴任が決まって間もなくのZへの出張で、AはHから自身に対する思いがけない中傷を受ける。

Zでの仕事後に開かれた飲み会の途中で帰ったAに対し、Hは翌日、飲み会の経費を会社に請求してくれるように頼んできた。これに対してAは「これが私の中国での最初の仕事ですか」とかわしてHの頼みに取り合わなかったが、次の移動先で会った顔馴染みの支社長に、唐突に「Aには会社の金の権限はまったくないんだよ」と言われた。話の真意を尋ねると、支社長は、Hがメールで、Aが強制的に飲み会のお金を会社に払わせようとしたと伝えてきたということだった。

2-3）Aの声

「前の僕だったら、ぜったいに怒りくるうし、社長にも、たぶん、いやいや逆だよ、あの人（H）が何か言ったんだよって…でも社長にも会って、あ、すいません、ちょっと酔ってたんでやっちゃったかもって言って、終わりにした。でぇー、あの人（H）にも次の日会って、あれ、昨日のお金、いくら払えばいいですかねって言ったら、400 元でいいよって言われて。（でも私は）ちゃんと 8000（元）払ったんですよ。何にも言わずに。」※（）内の言葉は筆者が加筆

「今から 5 年間行くんですよね。こう、隣に座って仕事してる人なのに、最初にけんかしちゃうと、なんかいいこと何もないなと。ただこう思ったのは、これからぜったいに行かないと、飲み会とか。」

「私はね、こう、どうでもいいことに、かかわんないほうがいいということを覚えてよかったなということ」

3）学習者のライフストーリーから学ぶこと

筆者は先述の LS で A が語った「前の僕」に注目した。前の A から今の A への変化のプロセスには A の経験的学びがいかに埋め込まれているかということに思いが至り、その重さが実感されたためである。LS とは、この経験的学びが A が改めて獲得した“行為をともなう言葉”となり、それが集積されたものなのだ。

学びは言葉となって行為につながり、ライフが築かれる。筆者は、元学習者である調査協力者の語りを言葉の教師である自身がこのように捉えることが、教室という小さな社会をどうデザインするか、その教室での教師としての自身をどう位置づけるかに通底すると考えている。LS の考察を進めながら、この底辺にある繋がりを探ることをとおして、教師である「私」が担える役割を再認識することができるのではないだろうか。学習者の LS は、教師各自がそれぞれに自身に沿った役割を認識し、果たすためのツールの宝庫である。

参考文献

川上郁雄（2015）「第 1 章 あなたはライフストーリーで何を語るのか―日本語教育におけるライフストーリー研究の意味」三代純平（編）『日本語教育学としてのライフストーリー 語りを聞き、書くということ』くろしお出版、pp. 22-49

三代純平（2015）「序 日本語教育学としてのライフストーリーを問う」三代純平（編）『日本語教育学としてのライフストーリー 語りを聞き、書くということ』くろしお出版、pp. 1-22

在インド日本国大使館ウェブサイト （2019 年 2 月 13 日閲覧）
https://www.in.emb-japan.go.jp/itpr_ja/Bilateral_relations.html

題名：中米カリブ日本語教育ネットワーク 10 年の歩み

アントニア・ルイサ・リバス（代表）

2018 年は、「中米カリブ日本語教育ネットワーク」が創設されてから 10 年が経ちました。このネットワークは、コスタリカで 2008 年に行われた第一回中米カリブ日本語教育セミナーで設立されました。

ネットワークは時間とともに成長し、現在 10 カ国で構成されています：コスタリカ、キューバ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ジャマイカ、ニカラグア、パナマ、ドミニカ共和国、トリニダードトバゴです。

今回の発表では、この地域での日本語教育の主な進捗と、このネットワークの創設によって得られた成果についてお話します。この 10 年間のネットワークが創設して以来生じた主な変遷の中には、次のものがあります。

ネットワーク開発における役割の変遷

最初の数年間は、現地の日本語非母語話者教師達の日本語レベルはまだそれほど発達していなかったので、ネットワーク内ではサポート役であり、それ故、主に日本人の教師が議論し、決定をしていました。その後「国別代表者」が決められ、現在では各国の日本語非母語話者教師が、毎月開催される代表者会議でネットワークについて考え、セミナーのプログラムなどを決定しています。

ネットワークの焦点の変化：日本語非母語話者教師の育成に集中

すべての参加者が会議とセミナーの両方を理解し参加できるように努力しています。 さらに、すべての参加者の意見を聞き、それを考慮に入れるための努力もされています。

ネットワークの成長とセミナーへの参加

また、初めてのセミナーに参加する国は数少なかったですが、現在セミナーに参加する国は 10 カ国で、その他メキシコ、アルゼンチン、コロンビア、ベネズエラなどからも、招聘講師または参加者として、セミナーに参加しています。これによって、中米カリブ日本語教育ネットワークの教師は、他の国々で行われている日本語のさまざまなモデルや教育的アプローチについて学ぶことができます。それ故、視野が広がり、中米カリブ地域の教師達の知識はさらに豊かになります。

教師の成長

2012 年以来、日本語非母語話者教師の日本語レベルが測定されています。彼らの教授力が上がらなければ、学生達のレベルも上げることはできないと結論付けられました。

このようにして達成されたのは、地域全体で約 200 人の日本語非母語話者教師の日本語能力の向上です。

また、トレーニングの必要性のおかげで、研究グループや小規模セミナーを実施するためのイニシアチブが各国で作成されました。例えば、エルサルバドルでは、日本語能力試験 N2 のための準備コース及び日本語教授法コースが作成されました。

中米カリブネットワークの主な成果

1. コスタリカ、エルサルバドル、トリニダードトバゴにおける JLPT の実施。これは、中・上級レベルを学ぶ中米カリブ地域の学生にとって、勉強の重要な励みになってきました。
2. 教師間の効率的なコミュニケーション。各拠点のメンバーは、月毎のオンライン会議によって、より効率的にコミュニケーションが取れるようになりました。このように、教師達は互いに協力し合ってセミナーの運営を行っています。さらに、教師を対象としたさまざまなトレーニングプログラムに関する情報を共有できます。これまでの数年間は、国の代表者はセミナーでのみ会合を開いていたので、セミナー終了後の夜遅くまで会議を開く必要がありました。
3. 教員の養成：このセミナーには、各地域の日本語教師たちが日本語育成トレーニング、新教授法トレーニング、問題点解決対策などを身につけられる機会があります。異なる教科書を分析し比較することができることに加えて、異なる学校のカリキュラムを更新し、教科書を常に更新することができます。そして、グループ勉強会が開催されています。
4. 相互協力のおかげで、中米カリブ諸国の関係を強化することができました。その結果、日本語教育の質が向上しました。
5. メキシコ日本語教師会、ペルー日系人協会などの他の日本語教育に関連したネットワークの拡大。
6. 上記のような活動は、学生達が自分の日本語のレベルを上昇するのに励ましになります。そして、教師の間だけでなく、学生の間でも、ネットワークの国々の間に存在する友情の絆を強化します。

ネットワークの今後のプロジェクト：

- 中米カリブ協会の創設。
- 学生同士が日本語で会話できるような交流を開催する。
- 日本語学生間の情報交換のための技術的手段の効果的な使用

この 10 年で中米カリブのネットワークも進歩してきました。私たちのプレゼンテーションで中米地域の教師たちが直面しているさまざまな課題について発表します。

総会資料

Asociación Mexicana del Idioma Japonés
AMIJ
メキシコ日本語教師会

総会
Asamblea General

2019年3月2日(土)

Sábado, 2 de marzo de 2019

REGIÓN NOROESTE:
Baja California Norte y Sur, Sonora y Sinaloa
Alejandro Lizárraga Bernal

REGIÓN NORTE:
Chihuahua, Coahuila, Nuevo León, Tamaulipas, Durango y Zacatecas
Aún sin representante

REGIÓN CENTRAL:
Nayarit, Aguascalientes, San Luis Potosí, Jalisco, Guanajuato, Querétaro, Michoacán y Colima
Yusuke Takemori

REGIÓN SUR:
Oaxaca, Guerrero y Chiapas
Aún sin representante

REGIÓN ESTE:
Veracruz, Tabasco, Campeche, Yucatán y Quintana Roo
Janet Solís Méndez

REGIÓN METROPOLITANA:
Puebla, Tlaxcala, Estado de México, Morelos, Hidalgo y Ciudad de México
Koito Nakaune, Mami Ebara, Akira Sunami,

役員の紹介
Presidente, Secretario General y Tesorero

-会長　Presidente
Yusuke Takemori

-事務局長　Secretaria General
Koito Nakaune

-会計　Tesorera
Mami Ebara

法定代表者 Presentación del Representante Legal
C.P. Maribel Miranda Juárez

議題　Programa del día

1. 2018年活動報告
   Informe de las actividades realizadas en 2018

2. 2018年会計報告
   Informe financiero 2018
   ※別途、会計資料を参照ください
   ※ Sobre el informe financiero, favor de observar el otro archivo.

3. 2019年活動予定
   Plan anual de actividades del 2019

4.次期理事会役員承認
   Aprobación de la nueva mesa directiva

5. 質疑応答
   Preguntas y respuestas

1.　2018年活動報告

（2018年1月～12月）

Informe de las actividades realizadas en 2018

(Desde enero hasta diciembre de 2018)

目次　índice

- 1.1. 第23回日本語教育シンポジウム
  23º Simposio de la Enseñanza del Idioma Japonés
- 1.2. 第35回メキシコ日本語弁論大会
  35º Concurso Nacional de Oratoria del Idioma Japonés en México
- 1.3. 夏季短期集中講座 2018
  Curso Intensivo de Verano 2018
- 1.4. 教師会ホームページ紹介
  Presentación de la página web de la Asociación Mexicana del Idioma Japonés, A.C.
- 1.5. 支部活動
  Actividades Regionales

1.1. 第２3回日本語教育シンポジウム
23° Simposio de la Enseñanza del Idioma Japonés

日付：2018年3月9日(金)~11日(日)
Fecha :Viernes, 9 al domingo, 11 de marzo de 2018

会場：エル・コレヒオ・デ・メヒコ　アルフォンソレジェス講堂
Sede: Auditorio Alfonso Reyes de El Colegio de México

テーマ ：「中級へ続く自律学習に基づいた初級日本語教育」
Tema : "Enseñanza del nivel básico del idioma japonés con base en el estudio autodidacta para llegar al nivel intermedio"

講師：衣川隆生(名古屋大学国際機構国際言語センター教授)
Profesora： Takao Kinugawa
(Profesor del departamento de Lenguas internacionales de la Universidad de Nagoya)

受講者数：92名
Participación ：92 personas

1.2. 第35回メキシコ日本語弁論大会
35° Concurso Nacional de Oratoria del Idioma Japonés en México

日時：2018年5月27日(日)

Fecha ：Domingo, 27 de Mayo de 2018

会場：日本メキシコ学院　講堂

Sede ： Auditorio del Liceo Mexicano Japonés

応募者 ：23名

Solicitudes : 23 personas

出場者：15名

Concursantes : 15 personas

来場者：257名

Participación : 257 personas

1.3. 夏季短期集中講座 2018

Curso Intensivo de Verano 2018

日付：2018年7月14日(土)・15日(日)
Fecha: sábado 14 y domingo 15 de julio de 2018

会場：社団法人グアダラハラ日墨文化交流学院　講堂
Sede: Auditorio del Instituto de Intercambio Cultural México Japonés A.C.

テーマ：「授業づくり:基礎知識から自分らしい授業の作り方まで」
Tema :"La creación de una clase: De los conocimientos básicos hacia la manera de hacer una clase con tu propio estilo"

チューター：9名　Tutores：9 profesores
受講者：33名　Participación 33 personas
参加国：メキシコ、コスタリカ、トリニダード・トバゴ、グアテマラ、ドミニカ共和国
Países participantes: México, Costa Rica, Trinidad y Tobago, Guatemala y República Dominicana.

1.4. 教師会ホームページ紹介

Presentación de la página web de la Asociación Mexicana del Idioma Japonés, A.C.

教師会のメールアドレス / Correo de la AMIJ
amijriji@hotmail.com
Webサイト / Sitio web
URL : https://amijriji.wixsite.com/mysite

※2018年9月16日(水)より教師会のHPを変更
※Cambiamos la página web de AMIJ desde el 16 de septiembre de 2018

1.5. 2018年支部活動報告
Actividades Regionales del 2018

①	東部	Región Este
②	中部	Región Central
③	北部	Región Norte
④	北西部	Región Noroeste
⑤	首都圏部	Región Metropolitana

Región Este

12

①. 1ベラクルス大学勉強会
Reunión de estudio de la Universidad Veracruzana

日付: 2018年3月15日(木)、16日(金)
Fecha: jueves 15 y viernes, 16 de marzo de 2018
主催：国際交流基金メキシコ日本文化センター、メキシコ日本語教師会東部支部
Organización:Fundación Japón en México y Los miembros de AMIJ región este
講師：国際交流基金メキシコ日本文化センター 日本語教育アドバイザー
阿部　康子先生

Profesora ：Asesora en educación de la lengua japonesa de la Fundación Japón en México, Profesora Yasuko Abe

テーマ：まるごとコース：プランの評価

Tema: "El curso de Marugoto: La evaluación del plan de estudio"

会場： ベラクルス州立大学総合図書館内講義室

Sede : Sala Dra. Magdalena en la USBI Xalapa, Universidad Veracruzana

受講者：8名 Participación 8 personas

①. 2 2018年ベラクルス州勉強会
Reunión de estudio del estado de Veracruz

日付：2018年6月16日(土)、 17日(日)
Fecha: sábado 16 y domingo 17 de junio de 2018
主催：国際交流基金メキシコ日本文化センター、メキシコ日本語教師会東部支部
Organización:Fundación Japón en México y Los miembros de AMIJ región este
講師：国際交流基金メキシコ日本文化センター 日本語教育アドバイザー
松田　涼子先生
Profesora ：Asesora en educación de la lengua japonesa de la Fundación Japón en México, Profesora Ryoko Matsuda
テーマ：学習動機づけを考える
Tema: La manera de motivar a los alumnos

会場： ヘスタル言語センター、ベラクルス校
Sede : Centro de Idiomas Gestalt Veracruz

受講者：12名
Participación: 12 personas

①.3ベラクルス大学勉強会
Reunión de estudio de la Universidad Veracruzana

日付：2018年6月18日(月)、19日(火)
Fecha: lunes 18 y martes 19 de junio de 2018
主催：国際交流基金メキシコ日本文化センター、メキシコ日本語教師会東部支部
Organización:Fundación Japón en México y Los miembros de AMIJ región este
講師：国際交流基金メキシコ日本文化センター 日本語教育アドバイザー
阿部　康子先生
Profesora ：Asesora en educación de la lengua japonesa de la Fundación Japón en México,　Profesora　Yasuko Abe
テーマ：まるごとコース： 教案のフィードバック、ロールカードの作り方
Tema: "Retroalimentación del plan de estudio, la manera de preparar un juego de rol"
会場：　ベラクルス州立大学総合図書館内講義室
Sede :　Sala de Dra. Magdalena en la USBI Xalapa, UV
受講者: 5名
Participación: 5 personas

①. 4ベラクルス大学勉強会
Reunión de estudio de la Universidad Veracruzana

日付：2018年9月11日(火)、12日(水)
Fecha: martes 11 y miércoles 12 de Septiembre de 2018
主催：国際交流基金メキシコ日本文化センター、メキシコ日本語教師会東部支部
Organización:Fundación Japón en México y Los miembros de AMIJ región este
講師：国際交流基金メキシコ日本文化センター 日本語教育アドバイザー
阿部　康子先生
Profesora ：Asesora en educación de la lengua japonesa de la Fundación Japón en México,　Profesora　Yasuko Abe
テーマ：教科書の使い方"まるごとコース"
Tema: La manera de usar el libro de texto "Marugoto"
会場：　ベラクルス州立大学総合図書館内講義室
Sede :　Sala de Dra. Magdalena　de la USBI Xalapa, UV
受講者：5名　Participación: 5 personas

Región Central

17

②. 1 PUREZEN MÉXICO 2018

PUREZEN MÉXICO 2018 -Región Centro-

日付：2018年10月13日(土)

Fecha ：Sábado, 13 de Octubre de 2018

会場：グアナファト大学グアナファトキャンパス　マリアエレナ講堂

Sede ： Universidad de Guanajuato, Campus Guanajuato, Auditorio María Elena Morales.

テーマ：カテゴリーA「私の町のお土産」カテゴリーB「おすすめのプエブロマヒコ」
カテゴリーC「日本人の知らないメキシコ観光ツアー」

Tema: Categoría A “Souvenirs de mi ciudad” Categoría B “Recomendación de un pueblo mágico”
Categoría C “Tour por el México que no conocen los japoneses”

出場者：25名

Concursantes : 25 personas

来場者：71名

Asistentes : 71 personas

Región Norte

③.1 2018年度第2回モンテレイ日本語教育セミナー
2nd seminario de la enseñanza de idioma japonés 2018

日付：2018年10月18日(木)
Fecha：18 de octubre de 2018
主催：国際交流基金メキシコ日本文化センター、メキシコ日本語教師会北部支部
Organización:Fundación Japón en México y Los miembros de AMIJ región norte
講師：国際交流基金メキシコ日本文化センター 日本語教育上級アドバイザー
平田　好先生
Profesora ：Asesora superior de educación del idioma japonés de la Fundación Japón en México, Profesora Yoshimi Hirata
テーマ：読むことを考える-初級からの読解力向上-
Tema: Noción de lo que es la lectura-Mejoramiento de la habilidad lectora desde nivel principiante-
会場:モンテレイ工科大学モンテレイキャンパス
Sede : Tecnológico de Monterrey Campus Monterrey
受講者：23名　Participación： 23 personas

③.2 第9回北部弁論大会
9° Concurso de Oratoria en Japonés de la Zona Norte de México

日付：2018年10月6日(土)
Fecha：6 de octubre de 2018
会場:モンテレイ工科大学　モンテレイキャンパス
Sede: Tecnológico de Monterrey Campus Monterrey

テーマ:
カテゴリーA，カテゴリーB　自由
カテゴリーC「日本から学ぶ：私からメキシコに提案できること」
※ PPTを使ってのプレゼンテーション
Tema:Categoría A, Categoría B "Libre"
Categoría C "Aprender desde Japón : las cosas que puedo proponer a México"
※fueron una presentación utilizando los archivos de PPT

出場者： 11名　Concursantes : 11 personas
来場者： 250名　Participación : 250 personas

Región Noroeste

④.1 シナロア日本語教育セミナー
Seminario de enseñanza del idioma japonés en Sinaloa

日付：2018年11月23日(金)
Fecha：23 de noviembre de 2018
主催：国際交流基金メキシコ日本文化センター、メキシコ日本語教師会北西部支部
Organización:Fundación Japón en México y Los miembros de AMIJ región noroeste
講師：国際交流基金メキシコ日本文化センター 日本語教育アドバイザー
松田涼子先生
Profesora ：Asesora de Educación del Idioma Japonés de la Fundación Japón en México, Profesora Ryoko Matsuda
テーマ：読むことを考える-初級からの読解力向上-
Tema: Noción de lo que es la lectura-Mejoramiento de la habilidad lectora desde nivel principiante-
会場:シナロア自治大学クリアカン言語センター
Sede : Universidad Autónoma de Sinaloa, Centro de Estudios de idiomas Culiacán
受講者：10名 Participación： 10 personas

Región Metropolitana

⑤.1 第1回プエブラ日本語教育セミナー
Primer seminario de la enseñanza de idioma japonés 2018

日付：2018年11月23日(金)
Fecha：18 de octubre de 2018
講師：国際交流基金メキシコ日本文化センター 日本語教育上級アドバイザー
平田　好先生
国際交流基金メキシコ日本文化センター 日本語教育アドバイザー
鵜飼　香奈子先生

Profesora ：Asesora superior de educación del idioma japonés de la Fundación Japón en México, Profesora Yoshimi Hirata
Asesora de educación del idioma japonés de la Fundación Japón en México, Profesora Kanako Ukai

テーマ：読むことを考える-初級からの読解力向上-

Tema: Noción de lo que es la lectura-Mejoramiento de la habilidad lectora desde nivel principiante-

会場:ベネメリタプエブラ州立大学外国語センター

Sede : Benemérita Universidad Autónoma de Puebla

受講者：10名　Participación： 10 personas

質疑応答
Preguntas y respuestas

賛成の方はお手元の紙を挙げてください。
Si están de acuerdo,
levanten su papeleta numerada, por favor.

2. 2018年会計報告
Informe Financiero 2018

※別途の会計資料を参照ください。
※Favor de ver el otro archivo de Powerpoint.

3. 2019年活動予定

（2019年1月～12月）

Plan anual de actividades 2019

(Desde enero hasta diciembre de 2019)

日本語教育助成プログラム申請事業（旧さくらネットワーク事業）

Los proyectos de Solicitud al Programa de Apoyo para la Organizaciones de la Enseñanza del Idioma Japonés (anteriormente: Proyectos de Sakura Network)

2018年度/2019年度 国際交流基金　日本語教育助成事業
Programa de Apoyo para la Organizaciones de la Enseñanza del Idioma Japonés
(Año fiscal japonés 2018 y 2019)

第24回日本語教育シンポジウム
24° Simposio de la Enseñanza del Idioma Japonés (año fiscal japonés 2018)
日付：2019年3月1日、2日、3日　Fecha：1, 2 y 3 de marzo 2019
会場：エル・コレヒオ・デ・メヒコ　アルフォンソレジェス講堂
Sede: Auditorio Alfonso Reyes de El Colegio de México

2019年度　短期集中講座
Curso Intensivo de Verano 2019
日付：6月29日、30日または7月6日7日(予定)
Fecha:30 y 29 de Junio o 6 y 7 de julio(Tentativa)
会場:モンテレイ工科大学モンテレイキャンパス(予定)
Sede : Tecnológico de Monterrey Campus Monterrey (Tentativa)

ジャパンボウルメキシコ 2019
Japan Bowl 2019 en México
日付：2019年9月22日　Fecha: 22 de Septiembre 2019
会場:グアナファト中心街(予定)
Sede : Centro de Guanajuato (Tentativa)

1.6. 2019年支部活動予定
Actividades Regionales del 2019

①	東部	Región Este
②	中部	Región Central
③	北部	Región Norte

①.1 第15回東部弁論大会
15° Concurso de Oratoria en Japonés de la Zona Este de México

日付：2019年3月30日(土)
Fecha：30 de marzo de 2019
会場:ベラクルス大学人文学部講堂
Sede: Auditorio de humanidades de la Universidad Veracruzana

②.1 中部 Región Central
PUREZEN MÉXICO 2019

日付：2019年10月12日
Fecha：12 de octubre de 2019

会場:未定
Sede: Pendiente

③.1 北部　Región Norte
第10回メキシコ北部日本語弁論大会
10°　concurso de Oratoria en　Japonés de la Zona Norte de México

日付:未定
Fecha:Pendiente

会場:未定
Sede : Pendiente

質疑応答
Preguntas y respuestas

賛成の方はお手元の紙を挙げてください。
Si están de acuerdo,
levanten su papeleta numerada,
por favor.

4.次期理事会役員承認

Aprobación de la nueva mesa directiva

Nueva Mesa Directiva de la AMIJ Año fisical 2019 y 2020

REGIÓN NOROESTE:
Baja California Norte y Sur, Sonora y Sinaloa
Aún sin representante

REGIÓN NORTE:
Chihuahua, Coahuila, Nuevo León, Tamaulipas, Durango y Zacatecas
Kana Watanabe

REGIÓN CENTRAL:
Nayarit, Aguascalientes, San Luis Potosí, Jalisco, Guanajuato, Querétaro, Michoacán y Colima
Ronny Muñoz Santacruz

REGIÓN SUR:
Oaxaca, Guerrero y Chiapas
Aún sin representante

REGIÓN ESTE:
Veracruz, Tabasco, Campeche, Yucatán y Quintana Roo
Adalid Romero Domínguez

REGIÓN METROPOLITANA:
Puebla, Tlaxcala, Estado de México, Morelos, Hidalgo y Cuidad de México
Kazuko Nagao, Saeko Takekawa, Elisa Akemi Shimazaki Miho

賛成の方はお手元の紙を挙げてください。
Si están de acuerdo,
levanten su papeleta numerada,
por favor.

役員の紹介
Presidente, Secretario General y Tesorero

-会長　Presidente
Saeko Takekawa
-事務局長　Secretaria General
Elisa Akemi Shimazaki Miho
-会計　Tesorera
Kazuko Nagao
- 法定代表者 Presentación del Representante Legal
C.P. Maribel Miranda Juárez

賛成の方はお手元の紙を挙げてください。
Si están de acuerdo,
levanten su papeleta numerada,
por favor.

会員名簿

	機関名	会員名	
1	Universidad Autónoma de Sinaloa	リサラガ　ベルナル	ｱﾚﾊﾝﾄﾞﾛ
1	Instituto Tecnologico y de Estudios Superiores de Monterrey, Campus Monterrey	直井	恵理子
1	Universidad Technológica de Nagaoka	泉	千草
2		島	直子
1	ヌエボレオン州立大学外国語学習センター日本語課 Departamento del Idioma Japones- Centro de Estudios y Certificacion de Lenguas Extranjeras de UANL	渡辺	佳奈
2		福田	淳子
1	ITESM Campus Monterrey	田中	詩子
1	GDL 日墨文化交流学院　Instituto de Intercambio Cultural México-Japonés A.C.	松尾	孝司
2		加藤	光世
3		大久保	明菜
4		竹森	悠介
5		桑原	絵人
6		ミジャン　アギラル	イサベル
7		アルセ　ブスタマンテ	ロシオ　ディノラ
8		アルセ　ブスタマンテ	リリア　ロレナ
1	Universidad de Guadalajara, Universidad de Estudios Internacionales de Kanda	鈴木	小百合
1	Universidad de Guanajuato, Facultad de Siencias Sociales y Humanidades	桑葉	洋平
2		政田	貴子
1	Centro de Idioma Japonés CHIDOU 知道日本文化センター	ムニョス　　サンタクルス	ロニー　アンデルソン
2		リベロス　シルバ	マリベル
3		ラソ　　アギラル	アントニオ
4		エレラ	サマンタ
1	Meki Instituto Cultural Japonés（めき学園）	辻	祐子
1	Centro de Idiomas de la Universidad Veracruzana	黒崎	充
2		アコスタ　ピッタ	エステファニア
3		ｿﾘｽ ﾒﾝﾃﾞｽ	ｼﾞｬﾈｯﾄ
1	Centro de Idiomas Gestalt	ﾛﾒﾛ　ﾄﾞﾐﾝｹﾞｽ	ｱﾀﾞﾘﾄﾞ

	機関名	**会員名**	
1	Uni. Juarez Autónoma de Tabasco	ｸﾙｽ ｼｽﾈﾛｽ	ﾏｳﾘｼｵ
1	CARIBBEAN RESORT SERVICE JAPAN	佐野	静香
1	Asociación México Japonesa, A.C.	嶋崎	明美
2		サンチェス　ゴメス	ダビ
3		ｶﾞﾙｼｱ　ﾁｪｹﾙ	ｱﾙﾄｩﾛ　ﾀﾞﾆｴﾙ　ﾃﾞﾍｽｽ
4		棚町	ヘラルド
5		佐藤	順子
6		ガルシア　コルテス	アンドレア　グアダルーペ
7		カルデロン　エミゴデイオ	フェルナンド
1	Universidad del Valle de Puebla	マルケス	アンドレア　フェルナンダ
1	Centro de Idioma Japonés (Puebla)	角南	皓
1	Asociación Religiosa TENRIKYO	ｺﾙﾃｽ ﾛｻﾉ	ﾛﾄﾞﾘｺﾞ
2		ﾊﾞﾙﾃﾞｽ	ﾌｱﾝ ｶﾙﾛｽ
3		岡田	和成
1	El Colegio de México	粟飯原	淑恵
2		三浦	里美
1	国際交流基金 Fundación Japón	平田	好
2		松田	涼子
3		鵜飼	香奈子
1	No tiene.	江原	真実
1	Instituto Cultural Mexicano Japonés, A.C.	穂積	和子
2		岩永	府子
1	Liceo Mexicano Japonés A.C.	中畝	小糸
2		内野	あゆみ
3		三浦	紗季
4		川原	和美
5		南部	美佳
6		大西	恵美

7		関	千晶
8		レオン　ベタンソス	ヘナロ　アントニオ
	機関名	**会員名**	
9	Liceo Mexicano Japonés A.C.	ウエルタ　ベムデス	オスカル　ジラド
10		河崎	美能
1	IPN, Centro de Idiomas, UPIICSA	ヒメネス　フエンテス	ジョセリン
1	Centro de Enseñanza de Lenguas Extranjeras, UNAM ENALLT	星野	由美子
2		長尾	**和子**
1	Universidad Autónoma Chapingo	川南	真理子
1	Benemérita Universidad Autonoma de Puebla (BUAP)	山本	明子
1	Universidad La Salle, A.C.	正木	彊子
1	Asociación Cultural para la Investigación sobre Asia A.C. ACIA	サントス　オスナ	ヘスス
		ﾛﾌﾞﾚｽ	ﾌｧﾋﾞｱﾝ
2			
1	Tatsukijuku (Toluca)	クルス	カルラ　ベレニセ
2		マルティネス　サンルイス	ルス
3		竹川	佐詠子
1	Universidad del Valle de Puebla	マルケス	アンドレア　フェルナンダ
1	Universidad de Hokkaido	佐藤	梓
1	Independiente Universidad Centroamericana José Simeón Cañas	モラン	フアン　アンドレス
1	Universidad de El Salvador	リバス　サエンス	アントニア　ルイサ
1	Centro Cultural Japonés (Costa Rica)	篠原	麗奈